

園を類化せよ征伐せよといふ議論は暴論を超えて狂論の域に入つたものでありますから私共はこんな言論には耳を傾けず矢張豫定の進路を取つて動搖せずに進むものであります。されば坊間徒らに見る如き教育的見地から出版されたものでなく只營利一方から出たものは斷じて之を斥け少女の目にさへも觸れしめたくないのであります。従つて私の希望は現在に於いては或は矛盾になるかも知れません。即ち讀ませたしさればといつて讀ませるものはなしといふからであります。此點に於いて私は少年子女讀物の新提供を切に世の學者教育者著述家出版業者に望む次第であります。近時稍見るべきものありますけれども甚鮮少であることは痛嘆の外ないのであります。第三は從順にして和平なる習慣を得させたくあります。私は從順を以て少女の徳の殆ど全部を蔽うてゐるものと考へます。從順とは己を周圍に適應させる謂であります。即ち少女は父母に兄弟に師友に對して己の身を應ぜしめねばなりません。能く應ずるものは後に獨立して他を應ぜしめることが出來ます。應じたものでなければ

## (三)從順和平

ば應ぜしめることは出來ず。應ぜしめるものは曾て應じた經驗のある人であります。又從順は常に少女のみならず大人間に在つても必要な徳であります。人間が社會を作り國家を作り家庭を作つて生活する上は其所に必ず何等かの標準があつて上下の階級が出來るものであります。既に階級が出來るとすれば茲に從順の義務を要求せられること當然であります。假令一人て生活するとしても人は良心の指示に服従しなければなりません。況して家庭を作り國家を成す以上は家憲に服従し法律命令に服従しなければならぬのであります。若し之なければ家庭は亡び國家が滅びます。大人にしてもかくの如しとすれば未だ獨立せず大人の指導に由るに非れば生活をつゞけ得ぬ少女の身に取りては從順は殊に大切な徳であります。故に幼年の時より此の徳の習慣を養ひ置かねばなりません。能く從ふものに非れば後に能く大なる發達を爲し得ぬことは今更申すまでも無いことあります。服従なき家庭には家庭教育がありません。服従なき學校では學校教育が行はれません。服従なき國家では其統治が十



分にまゐりません。各種の社會階級は服従の有無によつて其生存の度に強弱大小があります。少女に對する服従の習慣を養成すべき必要は最早説くの要はありますまい。唯尙一言の要すべきは從順が和平にありたいといふこととあります。和平といふのは心から樂んで從順するの謂であります。形ばかり從順であつてもそれが心からでなく只表面のみであつては從順の徳は養はれたとは申されません。暴君に對する臣民の屈服の如きは素より從順ではないのであります。凡そ道德の實行には何等かの權威が加はること當然でありますが權威が徒らに擴張せられて從順が只恐懼より出る様なことならば避けねばなりません。戦々競々薄氷を踏むが如き態度は周到なる注意としては悪くはありますまいが從順に伴ふものとしては絶対に排斥せねばなりません。即ち從順は餘儀なくせられるものでなく自ら發奮して從順するといふ態度。換言すれば從順は人のものでなく己れのものであるかの如き態度に出たいと思ふのであります。かういふ態度をば私は和平と申すのであります。少女が能く大人の命令

## (四)敏捷活潑

に對して躊躇逡巡し或は口にブツ／＼いふが如きことありますが之は最も戒むべきものと信ずるのであります。第四は敏捷活潑な習慣を得させたいと思ひます。之は習慣といふよりは性質であります。私の望む所は敏捷に事を處し活潑に事に當る習慣を得させたいのであります。少女の自然性かも知れませんが頗る急を要する場合にも尙ぐ／＼して妙に勿體ぶり遠慮して居る風を見ますがそれが作法に適つた温雅な舉動であるなど、誤解する様なことでは困るのであります。さればといつて輕剽に奔り粗忽だらけて常に失敗過誤を演ずることも望ましくはありません。能くその中庸を得て而も元氣横溢してゐる態度が宜しいのであります。身體に故障ある少女若くは智性の發達普通に達せぬものには六かしいこととありますけれども平素の指導如何によつては隨分成功するものでもあります。小學校で受持學級を時々變更して見るのは一には其學級の缺點を新しい教師に由つて補はしたい爲であります。所が之が大方は成功しますにつけても周圍からの指導の有効なることを證し得て餘りあると信



じます。尋常四年の一少女がありました。頭腦はさして悪くはないけれども一定の時間に一定の事を命じると其成績は劣等生よりも劣るのであります。しかし時間の制限なく任意に長く爲さしめ置くと相當な成績を作り上げます。段々調べて見ますと此少女は家には父なく祖父なく兄弟なくあるものは皆女であるといふことが譯りました。それで友達を選ぶにも家は女のみでありますから少し男性に交はらしめたが可いと思ひまして今迄の家庭教師の女であつたのを換へて男に致しました。暫らくすると此の少女の舉動は頗る變はりまして從來の弊害と思はれて居た遅緩な部分は漸次に失はれて其後は一定の仕事に對して目に立つて後れるといふことはなくなつたのであります。此れ等は著しい例でありますが周囲の指導は如何程摸倣に富む少女を左右するかといふことの例證であると思ひます。第五は秩序整頓の習慣であります。少女は長じて一家を整理する任に當るものでありますから此の習慣も極めて大切であります。故に少女期に入つて學校用具を自ら處理する時代となつたのを機會とし

## (五) 秩序整頓

て彼等に此習慣を附與する必要があるあります。幼女期には玩具を弄んでも之を後に片付けて呉れる人が必要でありませう。然れども此の期に入つては玩具は勿論教科書なり衣服袴の類なり若くは頭髮の結方なり靴草履の始末なり必ず之を少女自身になさしめるといふを原則としなければなりません。お附や女中などが之を手助するのが如何にも忠義である如く振舞ふのは斷然止めるが可いのであります。それから男子と異なつて少女期の終りになれば何處の小學校にも裁縫科が加はるのでありますから衣類の一寸した綻びや袴などの紐の切れたの位は必ず自身で時を移さず繕はじめる習慣にして置くことも大切であります。又机上の整頓は申すに及ばず抽出の中も能く規律正しく整理して何時如何なる場合に際しても狼狽することなく所要の品物は必ず一定の場所に整へられてあるやうに致さねばなりません。教科書にしても筆記帳其の他のものにしても同様であります。甞り物品に對するばかりでなく仕事に對しても同様であります。甲の仕事終らば乙にかゝり乙終らば丙を始めるといふやうに次



第順序を立て未だ甲が終らないうちに其儘にして乙にかゝり乙を始めるかと思つてゐると又丙を取るといふ如きは少女期に決して少からぬ例であります。漸く少女期に入つた許りだとかまだ學校に慣れないから致し方がないとかいつて少しでも寛容する如きことないのが可いのであります。かくては幼女期から少女期に入り立ては中々仕事が多くて少女の心身に障害は無いかといふ人もありますが障害あつては困りますけれども然らざる以上は一の時期を劃すのでありますから之を好機會として茲に一の修養を始めるのが可いと思ふのであります。そして私はかく少女に望んだからとて決して少女の心身に障害を與へるものでないと確信するものであります。成人の後不仕鱈の婦人程困るものはありません。男子の不仕鱈は男子として堪忍も出来ませんが女子の不仕鱈は一家の不整理となり延いて其子女にまで悪影響を及ぼすものでありますから最戒むべきものであります。能く學校で學用品の整否を時々検査するのは此理由からと思ひます。忘れ物が多かつたり遺失物があつたり將又約束事が反古に

なつたりするのは不秩序不整頓の兒童に多くあることは別に統計するまでも無い話であります。従つてかゝる兒童は學業の進歩亦遅々たるものがあるので御座います。併しながら此に一の注意すべきは秩序に捕はれ整頓に没頭することの戒むべきことであります。能く讀書人が一寸机側を離れるにしても読み掛の書物を正しく書架に直し机上を悉く整頓するといふ風であります。之れでは整頓する爲に讀書するといふ風にならうと思ひます。又秩序にしても同様でありまして家で學科を復習するとして國語の次に算術次は綴方といふ様に順序次第を附けたとしても若し算術を始めにすまし次に讀書次に綴方とする方復習の便宜あるとすればそれが可いのでありますけれども秩序に囚はれ過ぎると何時も一定のしかも無理な場合でも何でもさうしなければ氣が済まぬといふ様になるのは大に戒めなければならぬのであります。第六は清潔整理の習慣も早く養成したいと思ひます。此の習慣は最初の中は専ら身體について申したいのであります。即ち身體を清潔にして汚濁に滲みさせない様な習慣に至ら



しめるのであります。男子は無論でありますが少女にしても不潔に陥ることを何とも思はないで手を汚さうが足を不潔にしようが一向平氣なものがありません。髪を洗ふこともせず爪を削ることもなさずその部室さへ掃除を怠つてそれでは立派なことを申してをります。女は奇麗に見えて其の實不潔を敢へてするものであるとは世間で申します。しかしかく言はれても致し方ない程無性の少女があります。身體の不潔は遂に病氣を惹き起す源となりますから尙更注意せずばならず殊に食物を調理し衣服を理め住居を整へる重任に當る人てありますから少女時代からして不潔の習慣を敢てしたならば或は誤つて一家の不幸を招致せぬとも限らないのであります。身體の清潔が出来たならば次には精神上の清潔を期せしめなければなりません。精神の清潔と申せば範圍は極めて廣くありますけれども邪を憎み正を愛し善に進み惡を遠ざけることであります。殊に物質欲について貪汚ならぬをいふのであります。人或は物質欲を少くせよ。そんな阿呆なことあるものかといふかも知れませんが私は物質

欲の爲に正義人道を逸する人が此頃特に多きを加へたのを見て國家將來の發展上甚悲觀すべきものと考へますからかく申す次第であります。富は決して國家唯一のものでありません。富が唯一のものでありますればフエニキヤやカルタゴや希臘や羅馬等は滅亡せぬのであります。何となれば此等の諸國は滅亡の際も尙莫大の富を有してゐたからであります。それで私は國家唯一のものは富でなくして健全なる國民の道義心であることを斷言するに躊躇しないのであります。教育は何處までも之を目的として進まねばならず。従つて少女に對する清潔の習慣は精神上此の點にまで及ぶを必要とするのであります。寡欲恬淡は獎勵するに及ばないかも知れませぬけれども貪欲飽くなきは戒しむべきことであります。第七は節制儉約の習慣であります。之は金錢物品を節し飽くなき身體欲を適當に處理するをいふことであります。金錢物品は人の生活上一日も缺くべからざるものであります。然れども一方に儉約するは他方に莫大の差違を生ずるものであります。然れども一方に儉約するは他方に



有用に之を使用するの義で只物吝みする即吝嗇とは同一でないことを心掛けしめねばならぬのであります。能く節儉はする然れども有用に使用しないといふ人が世間鮮くはありません。又中には之と反対で徒らに使用濫りに費すを以て得意とする人も多いのであります。共に金銭及物品使用の目的に適つたものでありません。故に儉約をさせるについてもよく其性質を了解せしめたいのであります。一枚の紙一本の筆も決して苟もせぬといふ様でなければなりません。即ち消費を節すると同時に保存方法を善くすることにも注意せしめるのであります。一冊の教科書は弟にも亦妹にも之を使用せしめる様に大切に取扱はしめたいのであります。能く清書の時に少女の不注意なものは始の一字が氣に合はぬからとて全紙を捨て去り次に又第二字が出来ないといつてそれを掻き捨てるといふ如きことを平氣でするものであります。此等は嚴に戒めなければならぬことであります。さればといつて所有心の強いは少女の常でありますから何も彼も己れの所有に歸せんとばかり心掛け澤山同一種の所有物

あるにも拘はず少しも弟妹に分ち與へることをしない少女があります。此も戒めねばなりません。貪婪飽くなきも吝嗇と同様性格の全部を傷けることとなります。大にしては國家の滅亡小にしては一身一家の破滅となるものと心得早く節約の習慣を得させねばなりません。次に身體欲の節制であります。此にいふ身體欲とは性慾をいふのではなく耳目鼻口の欲をいふのであります。換言すれば衣食住三者に對する欲望の意味であります。此欲も亦際涯なきものであります。心なき人々は稍もすると此の欲の捕虜になつて仕舞ふのであります。生活を維持發達せしめるに十分ならぬのは困りますけれども其以上を貪ることは無意味であります。否非徳であります。故に之を適當に節制することは捕はれない人生を送るが爲に必要であります。以上の如き譯でありますから父母教師たる人々は其子女子弟に幼少時代より此徳の習慣を養成することに於いて頗る注意しなければなりません。殊に女子は一家の主婦となりて専ら家政に當るものでありますから少女時代より能く此習慣を身に附け置かねばな



らぬのであります。それで私は此の習慣養成の一法として少女の出来る範囲内に於いて家事を手傳させる必要ありと信ずるものであります。調理洗濯掃除は勿論裁縫等の類に至るまで大人の爲す如くに善き結果を望まないうで只仕事に慣れる丈で満足する積りて手傳はしめるのであります。東京に遊學せる少年を夏季冬季休暇には必ず歸國を命ずる母親がありました。男子のことであり少しは東京で自由に所々を遊覽したくもあり又友人と一所に鎌倉江の島とか房州地方へ游泳にでも行つて見たい氣もするのであります。が嚴重なる國元の母親が決して許さぬのみか休暇になつてから一日たりとも後れて歸國するさへ承知しないのであります。此の少年は又至つて従順な性質でありますから心には色々希望はありますけれども何時も母の命の儘に急いで歸國するを例と致しました。さうすると母親は此の少年に永の勉強の慰藉を與へると同時に必ず家事の一部分に手傳させるのであります。時によると飯を焚かせお茶さへ調理させました。甚しきは此少年を驅つて市場に遣はし野菜其他を買ひ求めし

めるのであります。随分殘酷なやうにいふ人もありますがけれども母親の意見は儼として動きません。曰く人間生活の中最眞面目なのは戦争と家事とである。蓋し二者とも生死を的にするからである。然し戦争は稀有のもので平素にはない。家事は毎日のことであるが東京に遊學せる我兒は不幸寄宿舎生活のみしてゐて家事の何物たるやを理會せず。只讀書生となつてゐる。之は我兒將來の爲に取らぬことである。けれど學問を修業せしめる以上致方ない。世間往々不良少年の輩出を見るが人生のこの眞面目な生活を理會せぬに原因するもの多いと考へる。此點よりして我兒は世間並に自由を與へて夏季冬季の休みを放浪生活に費さしめることが出来ぬ。今の讀書生は只机上の空論家となるに終つて峻烈に人生を味ふことを厭ふ風がある。我兒は此の風潮に反對して假令大人物とならぬまでも人生を眞面目に考へる丈の素養を與へたい。親が日々如何にして彼に學問せしめつゝあるかに思ひ至らぬ兒たらしめたくない。見よ我等は壹厘の物一錢の品尙且つ賣買に争ひつゝあるではないか。今の讀書生



は一時の遊興に壹圓貳圓といふ大金を費して恬として居る。即ち此の大金を以て不真面目を買ひつゝある。國家將來の爲に憂ふべきは實に此精神である。此れ我が兒を所謂酷使する所以である。とかういつてをります。此の少年は私の郷里のものでありますが休暇を家郷に送つて上京する毎に私を尋ねて今年も母に家の手傳をさせられました。母が壹錢貳錢を争つて野菜などを買つてゐるのを見ますと私共はうっかりしてはゐられませんが、物見遊山する友達を羨んだ私は今は却てその人達を憐れに思ひますといふのが常であります。私は此母人が郷里の賢婦人であるに常に敬服してをります。此意見に對しては殊に賛成であり又この少年の將來に大に矚目してゐる次第であります。かゝることは嘗り少年ばかりでなく少女にこそ最必要と信ずるのでありますから若し家事を手傳ふを以て耻辱とする様な風が今の少女にありますならばそは大に叱正しなければならぬと思ひます。次に第八としては攝生運動の習慣であります。飲食物の攝取は生活上素より大切なことでありますけれども過量になり又

## (八) 攝生運動

過少にならぬやう即ち適度を得るべく注意せしめて之が爲に病氣を惹起することのないやうにしなければなりません。多く攝取したからといって營養十全とは限りません。美味美食を貪るものに營養不良の例は幾許もあります。然るに兎角少女期はそんな辨へもなく常に何物かを攝取するのが一つの癖のやうなものであります。臺所で摘み食ひするとか戸棚を開けて盗み喰するとか然らざるも常に湯を呑み茶を喫し朝から晩まで何時も口を動かし勝ちのものであります。少女は食ふに非れば談ず。四六時中口の休まる時は唯睡眠中のみとは能く穿つた評言と思はれるのであります。されば食事は勿論間食にしても常に規律あらしめ時間も將分量も常に一定して大方はそれを守るが可いのであります。それから運動であります。之は前に少女の活動性と題して申しましたから茲に更めていふ程も御座いませませんが少女の中にはあまり運動を好まずに室内蟄居を喜ぶ様なものも少くありません。少年と異なつて運動の必要は少なくて可いとか又將來一家の整理に任して男子の如く外を務めるてないから室内



塾居は少年に比して尤に聞えるなどといつて運動を奨励しない向もありますから一言を茲に費すのであります。運動の必要なことは男女共に變りはないのであります。食物を消化する上にも血液の巡行を補助する上にも清鮮な空気を呼吸する上にも排泄物を促進する上にも又勤勞の精神を養成する上にも衆人共同の實を擧げる上にも極めて大切であります。故に此習慣は自分一人て自分の身を取扱ひ得る少女期の始めより附與し置くべきであります。而もその運動は少女自身の勝手にのみ一任しないで規律ある一定の運動は必ず之をなさしめ其他は自由に任すといふ風の態度であります。近頃大人間に二木式呼吸法とか岡田式靜坐法とかが能く行はれて而も其効果の著しいことを聞くのであります。近頃大人間に二木式呼吸法とか岡田式靜坐法とかが能く行はれて而も其効果の著しいことを聞きませうが何れの種類にもせよ凡そ人たるものは必ず何かの運動を取るといふ習慣を得させたいものと考へるのであります。第九は時間を守る

## (九)時間厳守

習慣の養成であります。我國では時間を厳守する習慣が社會一般に行はれませんのであります。之は遺憾なことであります。集會などの場合に於いて能く此の嘆聲を聞くのであります。歐米諸國は流石に先進國だけあつて此點につけては頗る進歩して居る様であります。有名な話になつて居りますがワシントンがその使用してゐる書記の出務の際時計の間違から約五分ばかり後れて來ました時に書記を戒めて申しますにはそんな時計は買ひ直すが可い。然らざれば遺憾ながら君を解僱しなければならぬとかういはれたと申します。我國ならば五分は愚か十分廿分乃至卅分や一時間位後れても一向平氣で済まして居ります。時間の浪費を平氣とする國民に進歩はありません。況して己れ一人に關する時ならば兎も角も苟も公衆と一所に共同してする時などは公德を缺いたものといふべき譯て甚だ不都合な次第であります。されば早く此の習慣を養ひ起臥飲食は勿論日常の仕事にも出来るだけ時間を定めて一旦定めた以上は之を勵行する様にするが可いのであります。又學校に出すにしても譯もなく遅



## (三) 困苦缺乏

參せしめず一定の時間に正しく登校せしめる様習慣つけるが可いと思ひます。尤も女子の家政は必ずしも一々時間にのみ由つて爲すこと出来ないてあらうけれども成るべく規律よくする爲に時間制定を奨勵したいと思ひます。之が爲には少女の時から早く此習慣を附け置く必要があると思ひます。第十としては困苦缺乏に堪へる習慣を養ひたいと思ひます。忍耐即ち何事にも堪へる習慣は大切でありますが私は特に困苦缺乏に耐へる習慣を少女に早く得させたいと思ひます。假令身富貴に生れて諸事足り給する人でも此の徳は必要であります。況して常に困苦缺乏の中に生長するものに取つては尙更であります。故乃木大將は實に此徳の最秀でた御方と私の深く仰ぐ所であります。平素事なき日も尙ほ戰場に在ると同じく事毎に足らぬを以て足れりとして居られたことは實に敬慕の外無いてはありませんか。身絹布を纏はず食粟飯を厭はざるが如き或は一柄の水以て盥漱に足れりとするが如き尋常人の到底眞似すら出来ぬ所あります。故に乃木大將の行爲の如きは勿論何人にも之を望むこと難い

てはありませうけれども只此心は以て萬事に當らしむべきものと考へるのであります。殊に今の少女の教育の如き實に此方針に出づるを可と信じます。足れるが上に更に足らんことを欲し少女自身よりは却て父母自身が自身の心を満足せしめんと努める如きは戒めて避けねばならぬことであります。姑息の愛に溺れ我儘勝手に少女を仕立て、成長の後彼等をして怨ましめる如きは不得策の最甚しきものでありませんか。今の世の風潮兎角華美に走り驕奢に流れ心ある人をして常に慳感せしめるものがあります。禮儀作法を堅くすれば古風と嘲けられ質素勤勉を奨勵すれば頑固と罵られます。人は只易きにつき利を是れ趁ふといふ有様であります。臥薪嘗膽などいふことは昔の夢であります。而して此精神は稍もすると女子によつて多く代表せられます。私は今の學校教育について多くの疑を持つて居るものであります。前途洋々として春の海の如き少女に向つて四苦八苦の悲痛を現實にして教ふるは好ましいことではない様であります。くれ



ども今の學校管理者教育者が現實の社會及家庭とあまりにかけ離れたる教育を施して只少女少年の心を弄ばうとするに對しては大に反對するのであります。現實の社會とかけ離れぬ許りか寧ろ現實に以上の事實を想像して彼等の心に深刻に人生を描かして置く必要ありと思ひます。然れども纖弱な心身の少女でありますから失望落膽に終らしめることは素より不可ないのであります。茲に於いて困苦に耐へ缺乏に忍んで而も最後に人生の目的を到達し得る様な堅忍不拔の精神を養成する必要ありとする所以であります。第十一は思慮行爲を正確にする習慣を得させたいと思ひます。女子は兎角感情に驅られて仕事をする風があります。少女とても同様であります。仕事についても交際についても將た又遊樂につけても男子よりは此嫌が多くあります。而して其の移動も亦男子よりは激しくあります。かかる感情のことは後に感情篇について論述したいと思ひますが要するに此等は思慮を正確にし行爲を的確にするに由つて救ひ得られること、信じます。不確實不徹底は思想行爲共に避くべきもの

## (二) 思慮正確

## (三) 禮儀作法

であるといふ觀念を抱かしめ時によつては他人に對し社會に對して一種の罪惡を犯したものである位に考へしめて的確明瞭な態度に出づるの習慣を作りたと思ひます。第十二には禮儀作法を重んずる習慣を得させねばなりません。禮儀作法は女子の大切な修養であります。従つて此に更めていはずとも世人の認容する所であります。學校教育も亦之について多大の注意を拂つて居ります。然れども禮儀作法は事形式に屬するが爲に甚しく之を輕蔑する向も少くなく家庭に於ても唯安易平淡を旨とし少女に向つて或年齢までは之を放任して顧みないといふ父兄も少くありません。私の之に關する意見は少女の態度修練としても精神修養としても其時期相當に教練せしめるを可とするものであります。身體の發育が後れて居るとか精神の發達が不充分であるとか特殊の事情がありますならば致し方ないのであります。普通は生長せる少女に對してはその期を逸せず教練に取掛らねばならぬと信じます。小學校を終る少女にして物品の授受も出來ず來客の取次も辨へず食事の作法さては言語の使ひ分け



等に至るまで一々指圖のみを仰いでゐるといふ様では恥かしい次第であります。さりとして又あまり作法仕込で大人らしく振舞ふのも且つは生意氣に見えかつは老成に聞えて忌むべきものであります。然らずとするも禮儀作法は稍もすると精神を後にしてとかく幼少なるものに向ひ嚴重に形式を責むる弊に陥り勝ちのものであります。これ頗る注意を要する次第であります。即ち形式上少しの無理もなくして而も少女の本心より出づるかの如き態度に至らしめるを上乘とするのであります。次に第十三としては言語の使用を正しくする習慣を養ふが肝要であります。正しくするとは饒舌ならぬこと。虚偽を言はぬこと。時機を考へること等を意味するのであります。人は饒舌を以て女子の特性とし饒舌ならぬば女子でないとし申す程であります。然れども私は之を信じません。沈黙寡言男子も及ばぬ立派な女子も多う御座います。併しながら少女は兎角饒舌であります。心にも無いことを容易に話します。少年ならば教師父母の一言に静肅になります場合にも少女にはさう行かない場合があります。否

## (三) 饒舌多辯

之は寧ろ反對であるといふ人あるかも知れませんが事實は表面沈黙した様に見えて窃に低語喃々して居ります。己れの思想感情を急に抑制すること出来ない爲かも知れませんが是は益ないことでありますから止めさせねばなりません。饒舌多辯の中には必ず何處にか虚偽が伴ひます。自分では何時も誠實にいふ積りでも長い間に總合して見れば辻褃の合はない話が能く出て参ります。即ち少女の思想感情が統一されず感覺的に動搖して行く證據であります。それに又少女の大なる弊は推察か想像かによつて談話を進める場合の少くないことであります。一部分的確なることとも他の部分は推察臆測によりますから後に大に困ることがあります。之を試みるには同一の話の時を隔て、二度語らしめるが一番可くあります。すると其間に大なる徑庭あることを認められます。少年には此が少くあります。又同一時に見聞したことを語るにも少女の方が遙かに同一年齡の少年に勝ります。之れは必ずしも少女の方が觀察が緻密で而も能く秩序あるといふのではなく寧ろ談話に巧なのであります。既に巧であ



るとすれば其間に多少の修飾あることを認容しなければなりません。悪くいへば則ち誠實ならぬとも申されます。故に少女のあまりに談話に巧なるのは父母教師共に大なる注意を拂うて不誠實の點のないやう戒めねばなりません。次に時機を考へることゝいふのは時ならぬ時に似つかぬことをいふはぬ謂てあります。人の前で其人に關した話をしたり仕事最中に不意に考へたことを談したりする様なことは戒めたいのであります。素よりかく何もかも戒めづくめて置くことと舒暢した精神無邪氣な態度を見ることが出来なくなつて何時も大人じみた少女の様になる弊に陥るといはれるかも知れませんが私の考はさういふのではなく當に言ふべき時ならば衆人稠座の中といへども臆せず怯めず言はしめます。又平素全く任意の時ならば少女をして心行くまで談ぜしむるを可として之を許すものでありますから以上の心配は聊も無いと信ずるのであります。之を要するに少女の多辯饒舌も一の習慣でありますから言語は之を慎めといふことの心得を得しめ置く必要もありと信じかくは申すのであります。端な

## (四) 正義履行

くも他と争論して遂に隙を生ずるに至る如き或は卑言俗語を弄して自ら品位を毀損する如き何れも饒舌が其の因を爲すものであるといふ注意を拂ふことが出来ますならば私はそれで満足いたします。第十四には正義を履行する習慣を養ふことは少女教育の最大なるものゝ一つであることを申したいと思ひます。正義とは有形無形を問はず他人の所有物について少しも之を侵害せず寧ろ尊重するの謂てあります。日本人は此の正義の念が少いと能く人が申します。人の物も自分の物もあまり區別なしに取扱ふといふ意味であらうと思ひます。家庭内にありては殊に其の様な感じを致します。一體西洋の社會組織と異なつて我國は個人を主とせず家を單位と致しますから一家内のものは父の物であると同時に其一人たる母のものでもあり父や母のものは同時に子供のものであり兄の物はやがて弟の物であるといふ考が自ら養はれるのであります。かく一家内に於いて既にあまり自他の區別を附けません習慣が成長の後社會生活を營む様になつても缺點として現はれるであらうかとも思はれます。併し從



來は此の點に於いて却つて一家庭のものが共同一致をなしてその家庭の爲に盡瘁するといふ美風も養はれて來たので之が若し一家内の銘々が所有物に對して毫も相侵すを許さぬといふ状態でありましたならば一家は他人の寄合に外ならないから我國の家族的美制度は疾に破壊せられてあつたらうと思ふのであります。つまり共同心とか同情心などいふことは家族制度の美點であつて正義心の缺乏などいふことは同時にその缺點であります。然るに西洋の個人制度は正義心は自ら養はれますが稍もすると個人獨立を尊重する餘り他を顧みぬことになりすからそれでは社會組織が圓滿に行かぬといふ點より共同心同情心などの必要を絶叫する所いかと思はれます。ところがこの西洋の思想が我國に移入せられるやうになりますと彼等が絶叫する共同心同情心は我には左程必要はないが彼等自ら養成してあまり氣に留めなかつた正義心については我に大なる缺陷あるを以て我が國人は之を盛に叫び立てる様になつたと思はれるのであります。人のものは我が物など卑諺にもあります位自他所有の觀念に

ついでには深刻でなかつたのであります。學問教育ある人でさへも稍もすると渡る世界に鬼はないとか食はずに死んだ例しは昔から無いとかかうしてゐても遂になんとかなるだらうとか捨てる神もあれば助ける神もあるとかいつて人を慰め又自ら慰めてゐる向も少くないのであります。彼の國人から見れば随分呑氣な話に相違ありませんが皆之れ人生の苦を深刻に味はずして生活し來得た幸福といひ得るのであります。所が將來の世の中はかゝる呑氣で過されません。随分世には鬼もをります。食はずに死する人も決して尠くはありません。又何とかなるだらうといつても何ともなりません。捨てる神ばかりで努力奮闘せぬ人に救ける神は宿らないのであります。つまり人の情にのみよつて生活を僥倖しようなどといふ考では到底世間は渡られないのであります。そこで銘々は銘々の力に頼つて世に立ち人を益するより外ないのであります。此に於いて自分の所有は自分の所有として之を保護し他人の所有は他人の所有として之を侵害せず寧ろ之を尊重しなければならぬのであります。之がやが



て我が家族制度の缺點を補ひ得る所以であります。殊に所有物の人格とか名譽とかいふものに至つては尙更貴重しなければなりません。一本の筆一本の墨一枚の紙は價格としては何でもないやうであります。その人の承諾を得ないで使用する如き或は故なくして容易に他人の身體を毆打する如き若くは毀損する如き或は纒誣中傷によつてその名譽を奪略する如き兎角感情的國民には有り勝ちのものであります。此等は絶対に戒めねばならぬことであります。而してこの弊は少年よりは少女に於いて最甚しきものあるを感じます。些細なことではあります。私に於いては少女に次の様な例があります。この少女は年は十一歳で學術は頗る優等。學校では別に缺點と認められる程の性質も行爲もないのであります。昨年の夏休に休業中の日誌を正直にかけと先生に云はれたので休み後學校に差出した日誌を見ると

八月四日 琴のお稽古に行く時お姉様のリボンをそつと借りて行つた。氣が咎めてならない。早く歸つて元の儘に仕舞つて置かうと思つて急

いで歸つて見るとお姉様はもう外から歸つていらつしやる。私はそつとリボン箱へ入れようとしたらお姉様が駈けて來て随分ひどいと怒られた。私は黙つてあやまつた。

八月十一日 お姉様のお使ひに行く時。お姉様の蝙蝠傘を黙つてさして行つた。歸つて來るとお姉様は待つて居られて自分のがあらながらと仰つしやつた。私はお姉様のお使だから一度ぐらゐ可いてせうといつたらお姉様も黙つてをられた。あとで私が悪るかつたと思つた。八月廿三日 夕方散歩の時お姉様のお草履を穿いて出た。歸つてから元の通り仕舞つて置くのを忘れて室の中に這入つてしまつた。しばらくすると今までお庭で遊んでゐらしたお姉様はしきりに私を呼ばれる。何かと思つて行つて見ると玄關まで態々つれて行つてこの草履誰が穿いたのといはれた。態々私を呼んで尋ねる位なら知つて居られるだらう。あまり意地悪るいと思つたから態と存じませんとすねて見た。あなたも穿いたんぢやなくつて。多分さうでせう。多分ですつて随分ひ



どい。此れてお休み中三度でないの。私存じません頭や手や足にきいて見たら譯るでせう。お姉様は大そう怒つてお母様に申上げましたから私は大へん叱られた。休み中今夜くらゐつまらないことはなかつた。そして今度お姉様が間違つても私の物を使つたら意思返へしをして上げようと思つたが後でお姉様は決してそんなことを遊ばす方でない。又遊ばしても咎めるのは可くない。自分が悪る癖に叱られてそれを怨に思つてお姉様の過を見張りするやうではすまないと思つて意思返へしは止めた。

私は之を見て可笑しくなりました。素より此少女は意地悪く態と姉のものを粗末にしてやらうなどの深い考があつたのではなく只一時の出来心で仕たのに相違ないが一度ならず二度三度と之を重ねて而も三度目には姉と烈しく争ふなどのことはやはり前に申した所有物尊重の觀念が乏しい爲であると思ねばならぬのであります。かゝる些事素より咎め立てするには及ばぬやうでありますけれども兎角少女にはかゝる行爲があり勝

のものでありますからやはり戒めて置く必要があると信じます。茲に又正義につき少女に殊に注意すべき要件があります。それは正義と信ずるものに對しては決して一步も譲らぬといふ堅き決心のあることであります。正義を枉げれば不正義になります。共力同情博愛仁慈の行爲は之をせずとも人に咎め立てられることはありません。然れども正義の行爲は之を果さぬと不正義になつて何人も不道德に陥ります。之れ正義の行爲は道德上最大切である所以であります。我國民性は此に缺點あること前に申述べた通りであります。殊に女子は貞操問題に對して堅く正義を持する必要があると。之を持することをしないと女子貞操の美德は維持すること出来ません。従つて貞操維持の爲には身命をも放棄して顧みないといふ程の深い決心を有たせたいものと思ふのであります。それで此決心の養成は之をなるべく少女時代より始め不道理の下には身を置かぬ習性を得させねばなりません。それには前に申し述べた様に自他の所有を區別して互に之を尊重し相互に侵害せぬ様にするが大切であります。正義



## (二) 行爲反省

履行の習慣の缺如せる國民の教育は先づ此れ等が最先と信じます。最後に第十五として行爲の成績を反省し且つ之を批評する習性を得させたいと思ひます。日々の行爲について其善惡是非を判定し將來の行爲を規するやうの習慣であります。毎日々々の事でそれは中々容易でない。一日二日一月二月はつゞくけれども決して永く續くものでないとは經驗ある人のよくいふ所であります。しかし之も決心次第で若し毎日出來なければ一週間に一度なりと反省の時間を設けてするのも可いこととあります。成人してから始めようとするからそれで一つは出來ないのであります。少女の時からその習性に養ひ成して置けば六ヶしいことでは無いと思ひます。若し此が毎日日誌につけて置くとか若くは父母長者の前とか神佛の前に静坐してするとかいふことになりなると自分ばかり都合よくても相手の都合で制限せられることもあり又その時間もそんなに規律的に得られるとも限りませんから永續きはしないといふ恐れもあります。そんなに面倒にせず、只自身心の中に默想するだけで可いのでありますから

それ位のことには大抵出來ると思ふのであります。日に三度反省するまでに至らずとも少くも一度位は反省する様になりたいたいと思ひます。一度此の習慣がつかますと獨り過去の行爲の修正となるのみならず翌日からの行爲に大なる信用が置けて一旦信ずる所は猛然として而も熱心に之を履行し得る様になります。我國人は兎角將來に憧憬して過去を葬りがちであります。必ずしも悪いこととてなく寧ろ新進國民としては獎勵すべきものかも知れませんが將來は何時も過去や現在の産物でありますから過去や現在を顧みないで將來にのみ囑目するのは足地を踏まずして頭天に達せんことを思ふやうなものて共に取らない所てあります。而して此習慣は一家を整理する女子には誠に必要の度を加へますので従つて少女の時より早く習ひ性として置くが可いのであります。一家のことは中々細かい注意を要するものであります。一々其の度毎に是非判断するやうては毎日の仕事に於いて非常の煩瑣で同時に偉大なる心勞であります。それで大抵のことは大抵に習慣として之を履行し得るやう平素の修養が



大切であります。即ち此意味から私は少女の反省習慣を大切とするものであります。

以上十五項に分けまして私は少女に各種習慣の養成すべき理由を説きました。説き得て十分であるとは申されませんが要するに如上十五ヶ條は之を道徳方面から観察しますと所謂日常道徳であつて一旦緩急ある場合のものとなり少女には殊に忽暗に附すべからざる性質のものと考えますから此等道徳の實行的習慣を少女に得しめることは大切であると確信し茲に煩を厭はず縷述致した次第であります。尙意志の取扱としては少女賞罰のこともありますが此は省略して意思のことは此れて終りを告げようと思ひます。

### 第五章 少女の感情と取扱

次に少女の感情について陳述したいと思ひますが現今の研究では感情は最も説明に困難を感じるのであります。併し今は其進歩の範圍内に於

いて陳述することゝ致しませう。扱て感情は女子に強いとは一般に人のいふ所てありますが實に事實であります。理性で負けて感情に勝つ。感情は女子唯一の武器であるといふ位てあります。けれども近頃女子の感性について 女子の感性は男子に劣る。女子は男子よりも外科手術の苦痛を能く忍ぶを見ても知れるといふ意見を發表した人もあります。併し之は女子感性の鈍いのを證據立てる例とはならぬと思ひます。蓋し女子は苦痛を憂慮すること甚しい割合に一旦苦痛に遭遇すれば能く之に忍耐する特性を有するからであります。畢竟女子はその境遇に順應すること男子よりも容易なりといふ所以てあります。故にかゝる議論は一般からは之を採用せぬとして矢張り女子は感性の強いものとして茲に少女感性の一斑をば陳べたいのであります。その第一は少年に比して感情が熱烈なることてあります。つまり非常に感動し易いのであります。激し易く熱し易いのであります。恐怖すれば非常に強く恐怖し喜べば又非常に深く喜び悲しめば非常に強く悲しむのであります。泣く兒と地頭に勝てな



いと申しますがこの泣く子は少女に最多いのであります。涙は彼等の保護器であります。蓋し少年に在つては心中に燃える感動も發して外部に出で運動となつて現はれること少いのであります。少女は其神經組織も其筋肉も強くない爲であらうが直ちに外部運動となつて現はれ又外部からは直ちに内部感性を刺戟するからであらうと思ひます。第二には容易に起り容易に消散することあります。些細な事に感情を起し或は泣き或は笑ふのであります。今泣いた鳥は一寸笑つたなどいふ諺もありますが此れは恐らく少女について言つたことであらうと思ひます。今迄快活に衆と共に笑ひ興じて居たものが俄に泣き出すといふ意味であらうと思ひます。そして泣き出してもそれが時を経ずに又元の通り笑に興じるといふ風であります。此點から見ると少女教育は中々容易ではありません。何となれば彼等は多情多恨で同時に薄情とも言ひ得られる程變轉極りないからであります。換言すれば彼等の感情は一時的であるといひ得るのであります。前日故人の爲に泣きたる女が今日亦新人の爲に笑ふのであ

## (二) 激變

## (三) 利己

ります。此は成人のことではありますが少女にしても同様であります。前日迄氣に入りの先生は今日不信用の先生となるのであります。感情そのものゝ性質上當然のことでありませうけれども之もやはり女子身體の生活機能とその日常の生活動作より來る所と思ひます。第三には利己的であるといふことあります。彼等には未だ理性が發達しませんから彼等の感情を適當に指導匡正するものがありません。従つて彼等は身體的要求に驅られて飢ゑたものが食を求め如くに感情の發露を要求するのであります。勿論自分を離れて専ら他人の爲に又社會の爲になどいふ考は殆どありません。此點から見ると彼等は全く一の動物であるといふことが出來ます。それで其の感情も亦利己的のもので虚榮とが自尊とか自己擴張的のものや恐怖とか悲哀とか猜忌嫉妬とか自己保存的のものが多いので博愛同情の如き高尚なる感情は中々起り難いのであります。素より少年者として此の例には洩れませんが少年ならば虚榮にしても誇大的であり腕白的であつて正直なる部分を認めることが出來ますけれども少女の方は中



## (四)不統一

中遠慮的で巧者で人に知られない様に努めて實は大に知られたいと思つてゐる程であります。第四には境遇に應じて感情を修正することとあります。即ち場合によつて笑ふ情が充滿してゐながら悲泣致します。又悲哀の情が盛でありながら笑罵します。男子ならば極めて些細なりと思ふ様な事柄に少女は或は恐れ或は怒るのであります。さればといつて非常の大事に際すると却て冷靜大膽なことがあります。同一の事情同一の境遇でも感情の發露が異なるのであります。つまり少女の感情は統一ないのであります。素より統一なきが感情の常ではありますけれども少女の感情は甚しく不統一であります。かゝる時悲しんだ彼れ少女は必ず此の時笑はねばならぬと思へるにも拘らず笑ひません。却て悲しみます。測り難きは少女の感情であります。それに少女の感情で最取扱ひ悪いのは感情に偽りが多く表面と内心と異なりあることとあります。笑つて居るから愉快であらうと思ふと怒つて居り泣いて居るから悲しいかと思ふと實は笑つて居るといふ風が澤山あるのであります。それで褒められる積

## (五)現在

りて聞いて居ると惡口であつたり罵られてゐるかと思ふとそれが賞讃であつたりするのであります。此の點から少女には虚偽が多いなどいはれるのであります。畢竟感情に統一のない證據であります。第五には現存的であると云ふことであります。一體感情の發露は智力の發達と相提携するものでありますから想像推理等の心力が十分ならぬ少女は感情を永續せしめ置くことは勿論出来ません。彼等の心情を誘發した目前の刺戟が消散すると直様その感情も消滅するのであります。獨り時間的に永續せぬばかりでなく又範圍も狭小であります。即ち其周圍の物象によつて感情を起すので廣い範圍に涉ることがないのであります。眼前見える小蟲が恐ろしいので續いて來るべき猛獸の恐怖はありません。いはゞ彼等の感情は全く感覺的なりといふを至當とするのであります。故にそれを動搖せしめたいとならば何か或物を其處に現出せしめれば可いのであります。又その感情を轉換せしめたい時には更に新しき物を其所に將來すれば足りるのであります。而してこの性質は少女時代の初期に於いて殊



に著しいのであります。私は以上の如く五項を擧げ之を以て少女時代に於ける感情の特質と考へるのであります。要するに少女は感情生活を恣にするのでいはゞ感情に囚へられて生活するものでありますから教育上頗る注意して之を取扱はねばならぬと思ひます。一體私は今の學校教育は稍もすると少女の神経系統を損害してはゐやしまいかと恐れるものがあります。私は此の世智辛い世の中に處して激烈な競争をするてなければ生活は中々容易でないといふ時に當つては學校教育は頗る強い固い實行力を有する少女を作り上げることに注意しなければならぬと切に考へるのであります。即ち生れ甲斐のある人間を作ることには注意しなければならぬと思へるのであります。特別な社會一部の人や隱遁者生活をすゝる人々を除いては勤勉努力奮闘猛進の意氣を養はねばならぬと考へるのであります。世間では此頃精力主義とか申す様でありますが名は何にせよ其の實を得させたいと思ふのであります。それには宜しく少年殊に少女を導いて總ての困難總ての艱苦に克ち得るやうな身體と其中心の所信

に向つては飽迄猛進する底の決行的意志を有する様に教育したいと思ふのであります。然るに現今の學校教育は智識技藝を授ける一方に傾き次には感情の圓滿和平のみを考へて必要な身體を尙一層強健にするとか神経系統を強めて積極的猛進の氣風を養成するとかいふことをしないのは遺憾至極の事と考へるのであります。少女の智識を擴めることは素より必要でありませう。又感情の圓滿和平を期することも大切でありませうが更に現今の時代要求としては寧ろ強健質實なる人を作るの必要ありと信ずるのであります。彼の感情に囚へられる人に對して此希望は恐らく無益でありませう。之は實に憂ふべきことであります。歐米諸國に於いては近頃少年少女の自殺者が漸次殖えて參りました。何か僅かの不平があるとか或は一寸した失敗をしたとか若くは試験に不満足であつたとか甚しきは主人に叱られたとかいつて忽ち痛く神経を勞し其苦痛を忍び切れず又不面目に堪へ難いといふので斯る妄舉をするのであります。我國にも近時稍かゝる傾向が可成多く新聞に見える様になりました。無教育



な無智識なものであるならば不憫とも氣の毒とも感じられますが然らずして此れ等の小苦痛小煩悶に抵抗し打勝つことの出来ない結果からとするならば實に唾棄すべきものと思へるのであります。此等は前陳の神経系統の不健全から来るもので素より社會の趨勢が茲に至らしめたのでありませうが現今の學校教育の弊害も僅に加はつてゐるのであります。此等の詳細なる意見は前篇に於て一應申述べた所でありすから今は略します。要するに感情に囚へられざらんと努めてなければ何の効果もありませんので次に感情について細説する次第であります。

私は以上少女感情の一般について申述べましたが是よりは更に進んで少女感情の取扱について陳述したいと思ひます。第一には感情の性質をよく辨へねばならぬこととあります。凡そ人は生ある以上精神の活動なきを得ず。精神の活動ある以上喜怒哀樂の感情なきを得ぬのであります。殊に少女に於いて然りとするのであります。然れども古來我國では儒教の影響を受けて喜怒哀樂はあつても外部に現はさぬを以て道德であると

少女感情の  
取扱甲、感性を  
辨ふべし

し感情の發表については頗る入念戒めたものであります。此れは善か悪か今俄に判断することが出来ず又判断する必要ないかも知れませんが私の考では少女生活が未だ道德的生活に這入らぬ範圍に於いてのかくの如き感情の抑制には賛成出来ぬのであります。彼の主我的感情の自分を本位として徒らに我利を達せんが爲め稍もすれば泣く或は怒る甚しきは罵る叫ぶといふ如きは素より戒めねばならぬことではありますけれども眞に嬉しくして笑ひ悲しくして泣く等のことは人類が社會生活を營む爲に特別に人類にのみ發達したものであつて言はゞ天與のものであると信ずるのであります。此れなくば人は能く家庭生活社會生活をなし遂げるこゝと出来ないものであります。若し感情の發露その事が既に悪いとすれば人の顔は馬の如く犬の如く笑ふに要する筋肉の發達も必要ないものとなるのであります。馬は悲しくとも顔に現れませぬ。犬は嬉しくとも面に露はしません。是が果して修養でありますならば人は不幸なるかな犬馬に劣るものとなるのであります。如何なる方面から考究してもかゝる道理



の成立つことは萬々無いに定つてをります。否生物の發達史上不必要のものは發達致しませんといふことが原則でありますならば人に感情を發表すべき筋肉の相當に發達しあることは感情の發露を十分になすべきことを暗示するものであると承知すべきであります。然れども感情の發露は時に己を害し人を害することがあります。特に人類にのみ發達した社會的感情の如きも其發露を得手勝手にすればこれが却つて非社會的に陥ることがあります。之れ感情の取扱は能くその性質に應じなければならぬといふ譯であります。第二に感情は之を陶冶すべく而かも急激になすべからずといふことであります。陶冶には抑制と獎勵の二方法あります。抑制とは惡しき感情を制馭して其力を弱め獎勵とは善き感情を何處までも鼓舞する意味であります。併しながら此の兩法とも頗る困難であつて其奏功は容易でないのであります。殊に感情は動搖不定が其特質であつて且つ急轉直下の勢を以て四方に傳播し遂に收拾することの出來ない様になるのが常でありますから感情陶冶の難は一層甚しきを加へる譯であ

乙、感情は  
陶冶すべしイ、感情の制  
抑庚(一)身體の健  
康

ります。加之感情は一般に複雑であつて簡單ならぬが當然でありますし一旦習慣となつて固定した場合には如何にしても抜き難いことになるのでありますからいよゝますゝ感情陶冶の難きを加へる譯であります。然し難いからといつて之を自然に放任することが出來ません。即陶冶の方法を攻究する必要ある所以であります。扱てかくも困難なる感情の陶冶については先づ抑制の方から申すことゝ致しませう。之には(一)身體の健康を期すること。(二)他の觀念を強めること。(三)感情を誘起したる原因を驅除することの三項あると信じます。そこで順々に説示しますならば凡そ感情は身體と關係することは嗚々を要しないことであります。身體強壯にしてその機能に聊も停滯する所なかつたならば氣分は何時も爽快であつて感情は常に平調なるを得るのであります。之に反して何處かに故障があつて血液の循環が滯るとか或は内部外部の有機組織が破壊されて其機能が不十分であるとかいふことがあれば氣分が常に沈鬱して感情は妙に興奮するものであります。殊に少女期の終りには早く既に月經を



(二)他の情を強めること

見るものあるに至りますから此の時になると外部からの刺戟がなくとも内部刺戟に依つて各種の感情を誘起し殊に陰鬱なる気分を作るものであります。是れ努めて彼等の爲に感情の平靜ならんことを期するが故に先づ身體の強健を企圖しなければならぬ所以であります。次に他の觀念を強めるといふのは所謂感情の轉化を工夫することであり、感情は容易に轉化するもので殊に少女の感情に於いて其の然るを覺えるのであります。それには他の觀念を強めるのが一番捷徑と思ひます。泣いてゐる時に笑ふ觀念を惹起し怒れる時に平和な觀念を復起せしめる様にすれば泣くことが自然と止まり怒ることが跡形もなくなるのであります。併し此に注意を要するは感情轉化の時期であります。感情は容易に轉化するからといつて急に之をなしては不成績に終ります。悲哀の極泣いてゐるものに對して泣いては不可なりと叱るが如き又可笑しくて笑へるものに對して急に笑ふは卑怯なりなど戒める類であります。外部から加へる力の爲に泣くことを止めしめ笑ふことを躊躇せしめるのは却て悲哀を増さ

(三)原因を除くこと

ロ、感情の獎勵

(一)機會を與ふること

しめ笑を進める譯になります。中心の悲哀は泣くことによつて其力を減じ可笑しさは笑ふことに由つて其勢を衰へさせるものであります。故に少女教育者は能く其の時期を察して感情の轉化を工夫すべきであります。最後の感情を誘起したる原因を驅除するといふのは何人にも明瞭のことて今更説明を要せぬと思ひます。以上三の方法中その一は平素の心得てあつて其の二其の三は發現したる感情を抑制する方法であります。何れも感情を制限せる所以のものでありますから之を名づけて感情陶冶の間接法といふのであります。次に感情獎勵の方を申述べますが是にも(一)機會を與へること。(二)感情を起したる原因の觀念を強めること。(三)實例を示して模倣せしめることの三方法あると思ひます。先づ(一)から申さんならば感情は種類によつて練習の度重なるにつき却つて其發動を傷害するものもありますけれども大方は機會を與へて練習すればそれが習慣となつて道徳上の實行を期し得られるやうになるのであります。例へば博愛仁慈の行爲をば物品の施與に由つて練習するが如き又慰懃丁寧なる作法



によつて親切なる感情を養ひ得る如き此であります。併しながら茲に注意すべきは機會は之を適度に與へなければならぬといふことでもあります。少女の氣質を考へて斟酌するてなければ往々機會を與へすぎて却て感情を傷ける様になるものであります。世の神經質の教師が能く強き感情の少女に更に強き刺戟を與へて或は泣かしめ或は悲しませる様なのは斷じて褒めることの出来ないものと信じます。鋭き音響強き光線が却つて苦痛を感じざる様なものであります。次に(二)は抑制の場合と反對で感情を轉化せしめず寧ろ永續を圖る所以のものであります。一體感情は少女時代にあつては知的要素殊に記憶想像に大なる關係あるものでありますから一感情の永續を圖るは記憶想像等を適當に教化しなければならぬのであります。記憶想像は換言すれば則ち觀念運動に外ならぬ譯でありますのでそれで感情の起因となる觀念を強め且つ之を永續せしめる必要ありと同時に他の觀念の力を弱めることが大切なのであります。最後に(三)の實例を示して模倣せしめるのは感情陶冶に極めて有効なものであつて

(二)原因を強めること

(三)實例を示すこと

未だ説いて理會すること難く否理會しても之を實行することが出来ない程度の少女に在つては感情教育は模倣より外に道がないといつても可からうと思ひます。能く怒る教師の前には怒り易い生徒が出來ます。能く悲しむ父母の子は亦よく悲しみます。つまり長い歲月の中に何時の間にか無意識で模倣せられたのであります。之れ父母教師は常に細心な注意を拂つて彼等に對しなければならぬわけであります。併し此に注意すべきは餘り細心に過ぎて臆病になることであります。模倣せられるからといつて徒に感情の發表を慎しみ喜怒哀樂か常に天真を缺くやうな事あればそれこそ却て災害を醸すものであります。そこで父母教師はよく理性の導く所に従つて何時も雄大な感情を模せしめる様心掛けなければなりません。私はこれにて感情奨励の三方法を説示した積りてあります。要するに感情の陶冶は頗る難事であります。理性に由つて導かうとすれば少女の理會足らず。感情そのものに訴へやうとすれば奔逸捕捉すべからざるものがあります。茲を以て少女時代の終りに至れば必ず其の一方に偏



丙、感情は  
傷害すべからず

することを止め感情理性の二つを折衷して陶冶の効を收めんことを心掛  
けねばなりません。一方に偏して子女を傷害したる例は數へるに違ない  
程あります。第三に感情は決して傷害してはならぬといふことでありま  
す。尤も感情の種類にも由りますが之を傷害すると全く消滅するもので  
あります。例へばよく笑罵せられるものは廉耻心がなくなつて耻とも外  
聞悪るいとも感じません。不良少年などいはれるものに對して訓誨の實  
舉らぬは多くは廉耻の情が消滅してゐるからであります。即ち自暴自棄  
の境涯に陥つてゐるからであります。劣等生に向つて教師が出來ぬ／＼  
とばかりいつてゐるとその子供は一層出來なくなるのも此と同じ理由と  
思ひます。殊に少女は感情の發作が著しく凡べての行動は感情に由つて  
左右せられますから常に感情を善用すれば訓誨の効が現はれます。然ら  
ざれば少しも其効が見えません。従つて少女教育には彼等の感情を保存  
して傷けぬことが大切であります。神経質の女教師などが稍もすると己  
の感情からあまり強く少女を刺戟するを見ますが戒むべきことでありま

丁、形式を  
主とすべからず

す。母親としての少女取扱も亦此弊より遠ざからなければなりません。  
口八釜しくいふ教師と母親とは却つて少女に侮られるを見るは致し方な  
いと信じます。皆此れ少女の感情を傷害するからであります。然れども  
傷害を恐れて感情の保護をのみ努めれば少女は頗る我儘になりますから  
之れ亦注意すべきことであります。第四には感情の取扱は決して形式を  
主としてはならぬといふことであります。感情取扱は稍もすれば形式  
に流れ易いものであります。中心の喜なくして只外貌に笑を呈せしめ心  
に悲哀を感じざるに形に泣かしめるといふ場合は少女に少からぬことと  
あります。之は避けしめねばなりません。殊に學校の管理訓練は甚しく  
此の弊に陥るものあるを感じます。只規律を重んじ一齊にするを尊んで  
各個人の性情に應じた取扱をすることの出來ない學校(即組織の弊でもあ  
りませうが今日の學校教育を受けたるものが徒らに左顧右眈して己れの  
信ずる所に猛進する底の誠意を認めること出來ないのは皆この弊にかゝ  
つたものと信じます。泣くべきに泣かれず笑ふべきに笑はれず怒るべき



に怒られないで皆之を殺してゐるのであります。怒ること泣くことは場合によつて戒むべきこともありますが笑ふべきに笑ふ如きは少女に許して可いと思ひます。總べて現今の學校教育は少女自然の性情を傷けて早く既に或理想に達せしめんことにのみ汲々あせり居る様に感じますが此が私の所謂形式といふ所であります。綴方の教授が最もよく此の弊を露はして居ると思ひます。作文すべき豊かな思想と強き感情と必要な意志とを作らないで只課題によつてのみ綴らしめんとする今日の綴方教授は其効果の擧らないものも當然であります。國定小學教科書が頗る上乘の出来であるとして世間から賞讃を受けるにも拘はらず之を讀んで強き感興を惹かないのは一人の作てなく委員組織の製作に係るからであります。山陽先生の日本外史が讀者に偉大なる感化を與へるを見たら思半ばに過ぎるだらうと思ひます。雷り山陽先生ばかりではありません。何人の作ても眞に其人の思想感情を偽りなく述べたものであれば文章の巧拙は措いて問はず之を讀むものは必ず何等かの暗示を與へられるのであります。委

弊害ある綴方教授

高等女學校  
教育は形式  
多可なり

員組織とか團體組合とかの手で多くの人の修正を経たものは其製作に瑕瑾は少なくありませうが人を引き付ける力が減少致します。文の形式に重きを置いて言外の感情が少しも含蓄せられないからであります。之と同じことと今日の學校教育は多數共同の教授を致しますから兒童は共同的のみ生活しますので感情の發露は抑制せられ意志の實行は遮蔽せられるのであります。従つて己れの力を十分に試みるの機會は少く自己に對する信用の經驗も薄く遂に過失さへなければ可い位の平凡なものになつて仕舞ふのであります。即ち是れ感情の發作を制裁する所以で或は發作せしめるとしても何等かの抑壓の下でありますから彼等の感情は云はゞ悉く形式に捕へられる譯になるのであります。換言すれば感情は桎梏せられて自由ならぬのであります。私はかゝる教育の効果を頗る疑と致します。一般に長じた女子教育即ち高等女學校教育等に至れば餘程形式を加味すべく否或は全く形式によつて感情を抑制しなければならぬ場合が寧ろ多いかも知れませんが少女教育に在つては此は少しく無理かと思



ひます。即ち今の教育は少女をあまりに成人取扱にするてはないかと疑はれるのであります。私は彼等を少女としてよりは幼女として取扱ふ方が現今の學校教育を矯正する唯一の道であると極端に思ふ位であります。それでも學校教育は尙幾分か寛假しても可い所がありますが更に家庭教育になりますと懸望しなければならぬ部分が一層多いのであります。それは少年子女に向つて殆んど活動を禁止して只大人しくせよとのみ要求するからであります。殊に少女に向つては此の要求が過酷と思はれる位強くあります。お前は女ではないか。此れが唯一の對少女訓練方針であります。かくて少女をして吾は女なり女は心ならざることにも黙従すべきもの屈服すべきものといふ考を抱かせる様になります。この黙従屈服が一面からいへば從順溫和の徳の標式で大層尊敬すべきものゝ様にも存せられますが併し家庭及世間に於ける女子の地位の高からざること亦此に原因すると思へば決して之を輕々に看過すべきものでないと信ずるのであります。従つて少女教育に於いては唯女なればといふ語だけでは

家庭は少女  
教育に形式  
多し

教練の意味が透徹致しません。學校に於ても將又家庭に於ても彼等の感情意志を重んじて成るべくその活動を自由ならしめるが可いのであります。少女時代より持つた感情を自由に發表せしめず其の意志を抑へて仕舞ふと彼等の心情は必ずや畏縮して其の自然に到達すべき所に到達せずして終るやうになります。換言すれば彼等自然の精神的發達を阻碍することになるのであります。私は常に子女教育についてかゝる考を抱いてをります。即ち女子には殊に其の時代々々に於いて其の懷抱する限りの思想感情を適當に發表せしめ幼女として少女として處女としての豊富な經驗を得せしめたいものであるといふこととあります。かくいへば所謂當今の新しがるを見得とする世間に於いて益新しきを獎勵する所以でないかと反駁する人があるかも知れませんが私の此の言は決してかゝる新しがりを推奨するものではありません。現今の子女教育は何もかもお前は女でないかの一言に盡して彼等をして畏縮困憊せしめてをりますから私はその桎梏から救ひ出さうと思ふのであります。尤も高等女學校教育に



なれば一段の考を要しますので一概に論じ過ぎませんが以上の弊は早く既に少女時代から始まつて居るならば確に救済しなければならぬこと、信じます。若しかゝる教育を受けて成人した女子があつたとすれば其の経験の反省が貧弱な爲め成人生活は頗る寂寥に終りはすまいか。そして又かゝる母によつて教育せられた子女の精神界は如何に蕭條たるものでありませうか。之を思ふと實に何ともいへぬ氣の毒な感に打たれるのであります。理想を早く實現せしめんとする形式教育は稍もすると苗を早く長ぜしめんとして之を抜く様なものであります。教育者及家庭の一考を要すべき點と信じます。第五に考へなければならぬのは感情の取扱は少女の性質を能く考へよといふことであります。少女の性質は勿論いろ／＼あります。理性の鋭敏のもあれば感性の猛烈のもあり又意志の極めて強固なものもあります。或は全く之と反対なものもあります。従つて其の行動は専ら感性に由るのもあれば理性に左右せられるものもあります。故に若しこの性質を解せず只一概に彼等の感情を或標準に由つて律せんと

苗を抜くに  
等しき教育に性、少女の  
性質を考ふ  
べし

するときは大なる間違を生ずること當然であります。氣の弱いものは氣の強いものに對すると同様の取扱は出来ません。剛情のもの執拗のもの夫々取扱を異にする必要があります。併し一般に少女は感情に脆いもの即ち稍もすれば他から其の弱さに乗じて引込まれ勝のものであります。他人の感性中に自分は知らず吸引せられるのであります。尤之は感情は傳染する性質を持つてゐるからにも由りますが之と同時に少女の性の著しく感性的なることを證明するものであります。故に少女感情の取扱は感情一般の理法に通じなければならぬ必要も茲に伴生して参ります。學校などで一般兒童に向つて教師から何か訓誡を加へるにしても其中に一人感情の強いものがあつて或は感に堪へず泣くやうなことがあると今迄平氣なもの或は平氣を粧つて居たものも忽ち泣き出すといふ例は枚擧に遑ないほどであります。かゝる時に當つて少女の性質として之を抑制して毅然たりといふことは出来ないのであります。畢竟抑制の意志が足らぬのであります。尤もかゝる場合は必ずしも抑制するのみが可い



とも限りませんから泣きたい時には泣き笑ひたい時には笑ふのも悪くは  
ありませんが真に心から感ぜずして只周圍に雷同することは褒めべきこ  
とでないのであります。此を以て女子感情の發露は心ある人から見ても甚  
だ輕薄で且つ表面的であると非難せらる次第であります。従つて女子の  
感情は甚價値ないものと誤認せられるやうになります。此れは女子に取  
つて頗る遺憾のことであり女子の自分を盡す上に一大缺陷となることで  
あれば女子一般の性情の容易に改め難い所は致し方ありませんが然らざ  
る所は之を矯正して感情の發露は心から真に感受したものに限るといふ  
様にしたいと思ひます。それには能く少女各人の性情を理會し之に適應  
する様な取扱を致さねばなりません。少女教育の教師が心理學教育學教  
授法などによく通達してゐても其の成績の割合に顯著ならぬのは如上の  
缺點を有する爲でありますまいか。一般の理法には明であつても各人  
の性情に通じない爲ではありますまいか。殊に少女は少年に異なり概し  
て外面餘程慎しみ勝のものでありますから其の眞の性情は教育家の理會

に苦しむ所でもありませうが何れにせよ感情は女子の生命であるといは  
れ而して其の發露も亦人々によりて大に異なる上はその取扱は少女銘々  
の性情を明にして然る後適應の處置を取るべきものであるといふことは  
少しも動かぬ議論であると考へられます。少女感情の取扱は其の原則と  
して以上五個の項目によりて大要を悉した積りてあります。次には少女  
感情の種類と教養法とを申述べませう。

先づ最初に個人的感情換言すれば主我的感情より始めます。感情の幼  
稚なものは主我的感情であつて此が同時に少女に烈しいことは前に述べ  
ました。此の種の感情は大體からいへば恐怖悲哀忿怒自尊放恣といふ如  
き種類でありまして此等は尤も制壓すべき部分に入るのであります。併  
し此種の感情も少女時代の初期に在つては彼等の生存上必要なものとし  
て許さなければならぬかと存じます。何となれば此の時期に於いては彼  
等の精神は頗る未熟であります。彼等の身體は著しく虛弱であります。  
此の未熟なる精神虛弱なる身體を保護し監督するものは別に大人のある



ありと雖も而も彼等自身にして自然に何等かの武器を有することが大切であります。それで敵に對しては恐怖もし悲哀もし忿怒もし又自ら尊大でもあり自然放恣でもあることが必要なりと信じます。即ち此等の感情は彼等の自己防禦として必要なものであります。従つて此時代のかゝる感情はあまり之を抑制せず其進る儘にして甚しき弊害のない限りは自然に放任しても善い場合が多いのであります。只習慣となつて矯正の時期を逸するやうなことがあつてはなりませんからそれで出来る丈早く注意する所以であります。次に主我的感情の細目についてお話しませう。

先づ第一に恐怖の情から申しませう。此の情は自己に危害を加へようとするものがある時自己は之に對して抵抗し又は之を除去することの出来ぬほど微力なものであるといふことを認めた時に起る不愉快の感じてあります。その微候としては顔色が蒼白となり呼吸が促迫し心悸戦慄し甚しきは次ぐに叫喚を以てすることが屢あります。又脉搏が弱く且不規則となることもあれば筋肉は弛緩し同時に其力が弱くなり唾腺も分泌を

## (一) 恐怖

止めて口や咽喉は渴き腸胃の消化力を減殺して下痢を催ふさしめ又嘔吐せしめることもあります。かくて全身の寒冷を覺えて冷汗粟生となり遂に號泣を以て終るが普通であります。従つて精神作用にも大影響を及ぼして従來の活動は抑止せられ一時に強き注意を此對象に向けるやうになりますから此時の境遇はあり／＼と後までも記憶せられるのであります。又瞬間ながらも其の災害の及ぶ程度及び範圍を考へる様になりまして過度の想像作用も起るのであります。甚しきに至ると此の想像作用の爲に今までの知的作用は全然失はれて只感情にのみ支配せられる人となることがあります。かうなればいくら此の恐怖の境遇から脱出しようと努めても其手段方法を見出すことの出来ない許るか却て恐怖の度を増して自繩自縛の位地に身を置くやうになるのであります。これが恐怖一般の性質でありますが此の情は男子よりも女子に多いのを認めるのであります。少し例を申しませう。知人に今歳十三歳の少女があります。好んで日誌を記しますがその中に 兄さんと呼ばうとして部屋の前へ出て行

## 恐怖の例



くと今迄明るかつた電氣が急に暗くなつた。いやな兄さんといつて障子を開けたらお化けといつて出て來られた。私は吃驚して泣いたとあります。又夜遅くお湯に入つたが怖かつたから大急ぎで出た。はいる前にお母さんから出る時は蓋をしていらつしやいと仰せられたがつひ思ひ出す暇もなかつた。後でお母さんから笑はれたり叱られたりした。又或日學校の歸りがけに後から私の名を呼ぶ人がある。ふり返つて見たが誰も居ない。しばらく歩くと又呼んだ。私は怖くなつて急いで家に着いた。後で聞くと姉さんであつたので私は腹が立つて打つた。只二三の例に過ぎませんが少女の恐怖性はかく迄に甚しいのであります。少年と比して實に雲泥の差といつて宜しいと思ひます。蓋し女子は身體上抵抗力が少く且つ事物に對する經驗及智識が比較的薄弱な爲かと思ふのであります。今之を明かにするために恐怖の起因について一言いたしませう。一體恐怖は先天的にもありますが大方は後天的のものであります。知らぬものを見て不思議に思ひ聞き慣れぬ音響を聞いて愕きますのは誰が教へたと

## 恐怖の起因

## 恐怖の保存

いふでもなく全く自己保存の先天的性情でありませうが若し此時少しの驚きも感せず平然自若として居たならば或は自衛の道に缺ける様なことが生ぜぬとも限りません。故に何もかも悉く恐怖するといふことは素より戒むべきことではありますが正しく恐怖することは之を獎勵せねばなりませんと思ひます。殊に後天的のものに於いては尙更のことてあります。彼の一度犬に噛まれたのを見て犬を恐怖し猫に追はれたからといつて猫を遠ざけ或は蛇に怖げたからとて蛇を恐れるなどは矯正しなければなりません。一度疾病に襲はれて其後は之を再びせざらんと用心し又耻辱を被つたことについて再び被ふりはせぬかと恐怖するが如きは實に獎勵しても保存して行くべきものと思ふのであります。扱て矯正保存のことは兎も角もとして恐怖の原因に戻つて御話致しますが恐怖の先天的のものは之を今直ちに如何ともすること出来ませんが後天的の原因は頗る注意すべきものがあります。能く女中其他が子女の従順を欲するが爲めに悪いことをすると化物に食はれるとか鼠に引かれるとか人浚に浚はれ



るとか或は天狗に捕へられるとかいつて之を威嚇し又父母教師も或は落第を以て或は罰則を以て之を抑壓する等のことは子女をして恐怖の情を誘起せしめる最大原因となるのであります。而して此等の誘因は勇氣ある抵抗力ある又一般的知識を有する少年に在つては恐怖の情を惹起せしめること比較的になくあります。少年よりも少女は父母教師の嚴格なる態度に恐れ大なる音聲に恐れ又決心に恐れることは少女を取扱つてゐる人の容易く逆睹し得る所であります。私の知れる一教師は常に大聲を以て教室生活をする人でありました。少年は此教授に大なる親しみをもちました。が反對に少女は此の教師を蛇蝎視したのであります。又體操教師の一人は其嚴格なるに於て男兒童には大に好かれましたが女生は全く此の人を恐れて遠ざけたのであります。所が此二例と反對に優柔不斷なる一教師の何處の學校でも男生徒には不信任を受けつゝけた人が某の女學校に轉任しますや非常に女生徒に愛敬せられつゝあるを見ました。理科

## 恐怖の取扱

(イ) 氣質を知ること  
 (ロ) 心理を知ること  
 (ハ) 原因を知ること

數學の教師でありますが教授といひ態度といひ又其思想といひ極めて直截明亮て善は直に之を善として喜び悪は立どころに之を惡として斥ける性格の人でありましたが女教師も女生徒も此の人の左右に近寄ることさへ恐れて居りました。學問は深淵で品性は高潔でありますから學校の爲には最惜しい人でありましたが止むことを得ず他へ轉任するの破目に立つたのであります。私は此事實を知つて女子教育の一層困難なことを悟り同時に如何に少女の恐怖を矯正すべきかについて考へたのであります。それで私は恐怖の情の取扱として (一) 父母教師は少女の氣質を能く知るべきこと (二) 恐怖の心理を會得すべきこと (三) 恐怖の原因を理會すべきことが大切であると思ひ付きました。少女の後天性を知らなくては恐怖の情に對する處置は出來ません。恐怖の心理を會得しなければ其抑制すべき部分と獎勵保存すべき部分とを明にすることが出來ません。適者生存といふことを能く申しますが之は人類の恐怖を誘引するものを豫防し又除去したものが適者であるといふ意味にも取れるかと思ひます。果し



(=)心力を練  
ること

て然らば正常な恐怖は人に無ければならぬことになるのであります。最後に(四)恐怖の原因は先天的なるか將後天的なるかを考へ知識を附與するに由つて経験を廣めるに由つて又自信力を養ひ體力を張り意志を練ることに由つて抵抗力を加へかくて恐怖の正しくないものを驅逐する様に努むべきであります。之を要するに少女は少年に比し感情的に生活致しますから事實を誇大に感受し又想像をより以上に逞うして眞摯着實な判断に遠ざかり勝つものであります。従つて恐怖の情も正常以上に強く大きく發露するものであります。それで父母教師は何處までも眞面目に且つ正常に彼等を取扱ひまして正しい恐怖以外には決して恐怖すべきものでないといふことを理會せしめ同時にその實行を得しめるやうに致したいと思ひます。さればといつて徒らに盲勇を尊び暴意を奮ひ何事をも何物をも恐怖しないが一番であるなどいふ言動を取らしめてはなりません。暴虎憑河の勇は眞勇ではないのであります。それがかゝる場合には常に感情が理性に支配せられ意志に由つて制裁を受ける様にするのが大切で

(二)臆病

臆病の性質

あります。畢竟恐怖の情は之を抑制せんとして少女の意氣を暴ならしめず又之を奨勵せんとしてその元氣を銷沈せしめぬ様の中正なる手當が大切であります。恐怖に次いで茲に一言しなければならぬものがあります。それは第二臆病のこととあります。臆病といふのは主體のない一種の恐怖でありまして取扱上頗る困難するものであります。一體恐怖は前に述べたやうに一時的でありまして恐怖すべき原因物が無くなれば恐怖も其跡を失ふものであります。然れども臆病は之と頗る趣を異にしまして恐怖すべき原因の其所に現はれて居ないものにも拘はらず恰も現在せる如く豫想して恐怖するのであります。故に臆病は豫想の恐怖であると申す位であります。従て臆病は一種の精神病とも見做すことが出来るので自我といふ觀念が消失し自分が他の觀念に由つて左右せられることになるのであります。一體自我といふ觀念が人に存在すればこそ人は諸般の觀念を容認するものであります。此の觀念なければ精神は統一を失ひ或は他の觀念に全く支配せられるので其結果は我なきに至るのであります。



我な位取扱に困難することはありません。而もこの臆病は稍もすれば著しく傳染するもので一人臆病風に冒されると其周囲のものが忽ち之に感染し勝てあります。これ亦取扱の困難を感じるのであります。更に進んで一層取扱の困難を感じるのは臆病は外面に現はれないことが往々ある許りか却て假面を冠つて表面は頗る元氣で所謂勇氣凛々たるものがあるからであります。併し假令困難であるからといつて之を其儘にして置けませんから父母教師は之に對して相當の所置をしなければなりません。殊に少女はこの臆病風に罹ること少年よりも頗る多いものでありますから少女教育家は殊更注意を要する譯であります。次に取扱法を消極的積極的の二つに分けて叙述致しませう。先づ第一に消極的方法よりいへば (イ) 臆病の原因物を除去することあります。犬を恐れる者には犬を遠ざけ蛇に戦ぐものには山野の跋躑を止める如き此に屬します。然れども時には温和な犬に接せしめ又原野を散歩せしめて犬は必ずしも臆するに及ばぬもの又原野には必ずしも蛇の居るとも限らぬもの否蛇以外原

臆病の取扱

(イ) 原因の除去

(ロ) 精神の安靜

(ハ) 忍耐公平

野の犬に親しむべきものなることを悟了せしめることも儘に臆病矯正の手段であります。次に (ロ) 始終精神の安靜を期せしめること大切であります。動搖不安の心状態は少女を驅りて火なきに煙を見せしめ物なきに影あるを認めしめ一犬虚に叫びて百犬實を告げる如き心状態に陥らしめるものであります。之に反して平靜安堵の心状態ならば正しく聞き正しく視正しく感得しますから其の思考行爲が常に正鵠を失はないで、臆病風に吹き荒らされないのであります。次に (ハ) 父母教師は最公平に且忍耐して少女取扱をせねばなりません。不公平な取扱不親切で同情なき處置は少女をして益臆病ならしめるのであります。故に一事に對する父母教師の處置は少女をして其の態度其程度を豫め理會せしめ得る位でなければならぬと思ひます。それには常に少女の甲の行爲と乙の行爲に對する處置の差が行爲の差に應じたる程度にあるを必要とするのであります。之が所謂公平な取扱といふのでありませう。然るに父母教師の處置がその氣質に任せて憤怒した時猜忌した時等に由つて差違が生じたとすれば臆



病な少女は其處置の程度範圍を計りかねて愈臆病となるものであります。繼母に養はれた少女に此の例が澤山あります。一時的の雇教師に教へられた子女にも亦少くはありませぬ。此を以て父母教師は自己の氣質の長短を能く辨へて其短所を現はさぬやうにし親切で且つ同情篤く忍耐寛容の態度を以て彼等に接しなければならぬのであります。最後に(一)父母教師は少女の學術性行劣等なるを過度に咎めてはなりません。一體學術性行の劣等なるは少女天性の然らしめる所か或は怠惰不勉強の結果なるか怯懦惑亂の爲なるか等を能く考へて適法の處置をすべきであります。少女の中には天性魯鈍にもあらず又怠惰放漫にもあらず只臆病の爲に一時精神作用を失つて常には知れることも事ある時に忘却し周章狼狽平常の如くならぬといふもの決して少くありません。教師の頗る劣等なりと考へるものが家庭に於ては中々の優等者であり口頭では戰慄能く言ふ能はぬものでも筆答では直截明瞭なるもの少くはあります。之れ少女は學校に對し又教師に對して臆してゐるといふことを證明するものであります。

(二)劣等の寛容

(ホ)強健なる身體

(ヘ)元氣なる友達

す。元來少女のみならず少年でも同様でありますが彼等の天性は本來臆病なものでなく寧ろ快活にして元氣あり率直にして僞らぬものであります。其證據は彼等が心に思惟する所あれば直に之を言語文字に發表し又何か感得する所あれば忽ち之を其態度に發露するので譯ります。然るに少年少女の中には稍もすれば臆病風に襲はれて其思想感情を容易に發表することを拒む傾あるのはその教師が詰責過度に互つた結果か或は平素の威嚇が甚しかつた爲めかとより考へられないのであります。勿論その他の原因も多々ありませう。併し教師自らはかく道徳的に考へて己を戒め少年少女に對する態度を和けて彼等の劣等性を傷つけない様にするのが上乘であります。以上消極的方法を終りましたから第二積極的方法に移ります。先づ(ホ)強健な身體を作らねばなりません。之は恐怖の取扱にも述べましたが強健な身體でなければ自信が出來ず自信が出來なければ茲に臆病の矯正がなしかねます。元氣で遊んでゐる中に一人仲間放れをするが如き少女あらば餘程注意すべきであります。次に(ヘ)元氣の熾んな



友達を興ふるが可いのであります。如何に臆病な少女でも其の遊び仲間が元氣である時に自分獨り不元氣で居ることは出来ません。習ふより慣れよと申しますが幾十幾百の教訓も其周囲の力に及ばないことが往々あります。遊び友達は即ち彼等の周囲であります。某の學校に立派な家庭の少女がありました。天性伶俐で理會力も十分に感性も大に發達してゐましたが久しく病氣に犯されて學校を一年許り休みました。之れが爲に病氣が直つて新學年に登校して見てもその會て友達たる人並に教師に對して自己學業の後れを痛く恥ぢたと見え何事にも怯むて成績は勿論その氣質までも妙に挫けて非常に臆病な性となりました。教室では教師に答へることはせずその會て快活な風は殆ど見るに由なく果ては教室で衆と共に辨當を食するさへ隠し立てする様になりました。教師も友達も一時大に困却しましたが之は友達の力に依つて矯正するより外に道がないと考へまして平素此の少女の尊敬し且つ好める快活な四五の友達を選んで之に與へましたら僅か一ヶ月と経たない中に其性質が全く舊に復して能

(ト) 智識の増進

く談し能く遊び學業も再び元の優等に立ち返つたのであります。夫から自信力も漸次に着いて來て其の後には少しも臆病若くは怯懦の風を見ることのない様になりました。友達の選擇は此に由つて見ても大切なことが譯ります。次に(ト)智識の増進を計つて遣ることとあります。智識の寡少及び教育の錯誤は屢々臆病を誘起するものであります。妖怪を信ずる如き實に此れてあります。殊に自然界の奇現象は大人で教育を受けたるものすら之を理會せずに臆病の原因をなすことがあります。少女の年齢尙未熟にして假令説明しても理會せぬものなら致し方ありませんが既に多少の教育を受けて人の談話に耳を傾け得るやうになれば當然説明を加へて彼等をして眞に臆すべからざる理由を明瞭ならしむるは臆病を豫防し若くは矯正する一手段であります。否彼等をして眞理を愛し事實を尊敬せしむる性向を作るものであります。最後に特に大聲告げなければならぬものがあります。それは(チ)膽力を修練することとあります。併し膽力を練る爲であると稱して強ひて臆病者に諸種の嚴酷なる處置を加へるなど

(チ) 膽力の修練



は断じて止めねばなりません。例へば臆病な少女に對して暗夜に態々外出を命ずるが如き或は故意に獨り暗室に靜坐せしめる如き又殊に遙か隔離せる部室に單獨に就寝せしめる如きの類であります。此等の方法は能く普通に行はれることとありますが私は絶對的に不賛成であります。矯正の効を收める能はざるは勿論却て畏怖を大ならしめ臆病を増さしめ恢復の出来ない心意状態を作るからであります。即ちかゝる無慈悲無情なる取扱の結果は稍もすると少女をして激烈なる腦衝を起さしめることあるのみならず果ては少女をして父母長上に對する尊敬愛慕の心を失はしめ全く臆病に關係せざる他の教訓すらも無効に終らしめること往々見るからであります。私の家で數年前養ひ置いた十四歳の少女がありました。其父母を怨むこと非常なもので私が如何に教訓を加へても父母に對する彼の女の心情を和げることは出来ません。教訓を加へれば加へる程却つて彼の女の心情を傷害するのみであります。仕方がありませんから彼の女のなすが儘に一時放任いたしましたでしたが彼の女のかゝる性情は早く

實母を失ひ繼母に育てられて暗室に單獨に就寝したその無情さを子供ながらにも心に滲みくゞと感じた結果であるといふことが後年其の父なる人に遭つて能く領會したのであります。彼の女が臆病なる爲に其の父母がかゝる取扱をしたか否かを知りませんが幼少なるもの理會力なきものに對する父母長者の取扱は假令善意より出たにせよ頗る注意しなければならぬことは此一例で能く解ります。即ち體力の薄弱なる能力の幼稚なるものに對して大人に對する如き膽力修練の方法を取るなどは断じて不可ないのであります。近年山登りとか海上游泳とか長距離競走とか随分思ひ切つた過酷な修練を硬教育など稱して少年に課する風が其所此所に聞きますが此亦注意して欲しいのであります。大人にすべきことを直ちに少年少女に移して得たりとする教育者は随分思ひ切りの善い人と私は恐怖するのであります。少くも少女心理の如何なものかを一寸でも覗いたらば容易に出来ぬ事柄と思ひます。然れどもあまり用心に過ぎて所謂手も足も出せないやうにするのは此れ亦賞めたこととありません。相



當の機會だにあらば周匝なる注意を拂つて膽力の鍛練を少女にも企てしめなければならぬと思ふのであります。以上臆病に對する取扱を消極積極の二つに分け更に其の各々を四小項として説明致しましたが要するに臆病は恐怖の常住なるもの而して未來に關する事柄に對しての豫想でありしめて一種の病的性質を帯びて來るものでありますから父母教師は特に入念して取扱はねばならぬと思ひます。臆病に關しては此で終りと致します。次に第三悲哀の情について申しませう。此れ亦少年よりは少女に多い感情であります。扱て此の情は如何なる場合に起るかといふに自分に有益なもの、消滅する場合とか或は有害なもの、生じ來ました時に起る不愉快の感情であります。此の感情の特徴として外部から見えることは顔色が蒼白となり筋肉は弛緩し頭は低く垂れ涙が出る等のことすべて生活作用を減殺せしめるものであります。若し此の悲哀が過つて長く繼續しますと所謂憂鬱症となりまして爽快無邪氣なものでも沈鬱て眞面目らしい状態を呈し快活に働いた自覺心などは全く消磨し去つて少し

## 悲哀の性質

## (三) 悲哀

の痕跡を留めず従つて記憶想像思辨等の自由なる觀念活動は見られなくなるのであります。行爲として外部に現はれるものは沈着といふよりは静止となり謹慎といふよりは遠慮となりはては高聲も微弱に言語は澁り應答も緩漫となつて氣息の奄々たるものあるを見るに至るのが普通であります。視線の集注は無くなつて只茫然として遠きに馳せ而も散漫として精神は喪失せしかの状態となり顔面に憂愁の氣を帯びて少しの元氣もなく風丰聊も舉らず姿勢の如きも殆んど不動となり木偶や人形の様に只他の轉置するに任せるのみで自動的元氣を認めません。甚しきに至ると衣食起臥の如き自己に對する自然の要求すらも全く遺忘せるやうな状況を呈します。かくて遂には身體の營養全く減し其機能の活動を全然失ひ従つて精神作用は傷害せられ一寸身心を使用しても非常な疲勞を感じて到底回復することの出來ないやうになるであります。

悲哀も此に至れば一種の病氣といふべきもので此れが取扱は父母教師よりは寧ろ精神病醫の領分に屬するものでありますがかくならざる



以前に於いて或は懊惱を催うし或は放縱我儘の行を敢てするものでありますから父母教師の注意如何によつては其以前に十分之が豫防をなし得るものであります。元來子供には過去もなければ未來もなく唯現在あるのみであります。故に彼等は僅に目前の享樂中に在つて無邪氣に無頓着に其生活を營むて居るのみであります。彼等の精神作用の大人と異なる所はこの現在を樂んで何等の蟠りもなく能く心氣の快活を持することにあります。即ち彼等は唯現在を謳歌高唱するのみであります。従つて假令或る事情の爲めに悲哀を感じましてもそれは一時のことと直ちに消散して仕舞ふのが當前であります。故に子供に何か意氣消沈的狀態ありとすれば即ち彼等に何か變態のあることを認容しなければなりません。此れ先に父母教師の用意如何に由つては彼等の病態を知悉する便宜あると云つた所以であります。既に病的狀態となりますれば父母教師の手を離れたものであります。其以外に在ては父母教師は如何なる取扱を彼等に施しませうか之が次に研究すべき所であります。思ふに女子は感情を追求

し勝のものであります。そして其の追究にはあまり平凡なるものよりも寧ろ危険なるものを好む性癖を有するものでありますから却て激越なる感情の興奮を欲するが爲に悲哀の情の誘起を希ふ風ないでもありません。少女も亦此例に洩れず芝居を見ても悲劇的のものを愛する傾を有して居ります。其の時自分には不快の感を起しながらも過ぎ去つた後に至りて追懐が愉快の感じを伴生せしめる爲か少年ならば寧ろ忌み嫌ひ或は憤ることあるにも拘はらず少女は泣きながら之を樂しみとする風を能く認めます。西班牙の闘牛場を見た人が少年少女について此の例を目撃したといふ話もあります。時に悲しい聲を出して顔を背け或は袖で顔を蔽ひなどしながらも時々好んで直視したのを認めたと申します。併し此等のことは唯婦人少女の性癖上已むを得ぬものとして放任して置きませうか。否大に注意して改めなければならぬのであります。そこで其方法に移りますが夫には先づ (イ) 悲哀の源因に遠ざからしめること肝要であります。勿論悲劇を見せしめ或は活動寫眞を觀せしめる等のことは避けねばなり



ません。親子離別の場合とか血族生死の場合とか人情の極めて微細な點を寫して少年少女の感性を強く刺戟しようとするのは現下に於ける極めて忌むべき風潮であります。獨り劇や活動寫眞のみならず近頃の少女小説若くは少女雜誌なども其の材料は此の種のもものが非常に多くあります。つまり少女の悲哀感をそゝくる様なものが大部分を占めて居るのであります。強き刺戟でなければ其反應が少ない爲かも知れませんが少女の弱き感情を動かすに猛烈なる刺戟を用ふる如きは努めて避けねばなりません。鋭敏なる彼等の感性を傷害するからであります。次には(ロ)悲哀感の發表を促すが可いと思ひます。感情は中に包藏して置けば愈増大するとは感情一般論に述べて置きましたが悲哀感も亦此例に洩れません。少女が若し泣くを要するならば泣くことを止める必要はありません。下品な無作法な泣き方をせぬ限りは泣かしめるが可くあります。又言語文字に表はして人に訴へたいとならばそれも悪くはありません。寧ろその發表を父母教師は快く聽いてやるが可いのであります。否受動的に聽い

(ロ) 悲哀は發  
表せしめよ

(ハ) 悲哀の原  
因を理會せ  
しめよ

て遣るのみならず更に進んでその發表を促がす方が一層善いのであります。斯る時少女は如何に父母教師を同情ある人として仰慕するてあります。悲哀は苦痛であることは前申した通りでありますからその苦痛を快く分けて呉れる人あるならば少女の慰樂や實に大なるものであります。父母教師は常に斯る機會を設けて一步たりとも彼等を指導することを忘れてはなりません。更に尙一の方法があります。即ち(ハ)悲哀の原因に就いて理會的説明を加へることです。前に述べたやうに此感情は己れに害をなすものゝ發生と己れに利を與へるものゝ消散に由つて生ずるものでありますからその利害とは如何なる性質のものなるか。その發生消散は如何なる原因に基つくものなるかを理會せしめ唯徒らに悲哀するをば禁止抑制するが可いと思ひます。感性の強き少女は稍もすれば悲哀の原因につきその性質を窮めず又その悲哀も何の原因かを理會しないで只その結果を見て悲哀し更に悲哀の爲に悲哀する如きこと往々見る所てあります。通常の場合に於て人生最大の悲哀は蓋し父母兄弟との死別で



ありませう。併しこんな時に際しても哀んで傷らずと古人も教へた通り悲哀此の上ないに相違ないが其死別には自ら相當の理由あつて然ることでありますから其れが已むを得ないことでありますならば人力の及ばない事であつたと諦めをつけて無限に悲しむといふことをせず大抵にしてその悲哀を切り上げる様に致させたいのであります。然るを只徒らに悲しみ徒らに嘆して及ばぬ愚痴の涙を限りなく流すが如きは感情の放恣に己を犠牲にするものといふので餘り感心せぬ行爲であります。それでも父母兄弟の場合は先づ可いとして之を許しませうが中には朝に別れて夕に會する場合にすら悲嘆に暮れる少女も少くありません。學校などでも能く見る例でありますが己れと無關係の人に一寸別れるさへ能く泣いて送るといふ有様であります。泣かねばとて何も無情刻薄な人といふてもありませんのに泣くを以て一種の交際と心得るかの如き有様であります。蓋し此等は皆悲哀の原因に對する理會が少女に缺乏せる爲でありますから父母教師は能く此等の場合に於て如何に悲哀すべきか又悲哀すべから

## (四) 忿怒

## 忿怒の性質

ざるかを説示することが大切なことと思ひます。素より少い私の経験でありますが少女時代は能く悲哀いたしますから悲哀の取扱は十分研究すべき價値あることを信じて此に一言を費やしました。第四にいふべきは忿怒であります。忿怒といふのは自己に危害を加へたものを除去せんとする時に生ずる感情で身體上にも精神上にも諸種の特徴が現はれます。先づ身體についていふならば筋肉は緊縮して且つ硬くなり身體は直立して強剛に又血液の循環が活潑となつて顔面朱を濺ぎ眼光是閃めいて所謂血眼となるのであります。此外口は固く結び呼吸は急迫して鼻孔まで擴がります。聲は溢つて少しの音聲を出しても直様嗚れ聲となつて遂には發聲に苦しむ様になります。心臟の鼓動は漸く烈しくなつて頭部頸部に血液を集注します然れども過度に忿怒が發する時は顔は青ざめ精神作用は一時中止される様になります。この場合になると唾液の分泌も停止されて消化作用も著しく鈍くなり血行も却て衰へ脈搏その他に異状を呈するのであります。時によると拳を固め腕を張り上げて人と物そ



の差別なく打擲する様になります。能く怒る人が喧嘩を常とするも斯る理に基くのでありませう。次に精神上の特徴を申し上げますならば元來忿怒の情は自己防衛の爲に發する本能的活動でありますが之と同時に自己に加へんとする危害を除かんとする欲望が手傳ふものであります。即ち本能に加ふるに欲望を以てするのであります。故に忿怒の目的が達せられさへすれば不快の情は變じて非常の快感を覺える様になるのであります。殊に忿怒の原因が自己に對する復讐を要求するものであつて而も其復讐が成功したとすると最初の苦痛が大なるだけ其れだけ快感が多くなるものであります。然れども此の情は元來非社會的下賤なるものであることは此の情の發作が激烈になると他の精神作用は全く禁止せられるにても能く解ります。従つて頗る大なる危険が伴ふものであります。所謂無我夢中になるからであります。無我夢中までに至らずとも此の情が永く續けば復讐となり嫌忌となり遂に變じて増悪となるものであります。少女に在つては過度に忿怒しても多くの場合無我夢中とはなりません能

く怒り勝ちのものでありますから一寸のことにも怒を移し又之が永續して復讐となり嫌忌となり又憎悪となる例は少年よりも遙に多いのであります。次に五六の例を示しませう。(一)或知人の少女でありますが二階に上らうとして弟の手を引いて三段まで昇ると足を踏み放つところ落ちました。自分で爲したにも拘はらず弟を大層叱つて居りました。怒を移す例と致します。弟は共に轉げましたが只笑つて居た許りであります。之れは姉弟全く反對と思ひます。否寧ろ弟の方が怒つて姉にかゝる筈と思ひます。(二)此の少女學校友達の武田といふ少女に對し常に不快の念を持つてゐました。或時私に向つていふには今日武田さんが私の見てゐた「雑誌」を一寸貸して下さいといつたから私は「いや」といつて斷りました。悪かつたけれどもその時はそれで大層愉快に感じました。平常武田さんが意地悪だからしかへしたのであります。といつて得々であります。少女の復讐は大抵こんなものであります。(三)この少女の日記を見ましたら弟ほど嫌なものはない。或日姉さんの本を持つていらつしやいと言付



けたら、いらつしやいとは何だ。僕を誰だと思ふ失敬なといつて私を怒鳴りつけました。あまり憎らしかつたから、内辨慶外だんまりといつて遣りましたら、「何、生意氣な」といつて私にかゝつて來ました。そこをお母様に見付けられて私は大層叱られました。弟のことで私は何時も叱られますがお母様も弟をあまり大事になさるから不可ぬと思ひます。私は弟ほど憎らしいものはありません。といふやうに書いてありました。(四)此の少女本を買つて來た姉に向ひ見せて下さい。「いやてす遂に怒つて仕舞ひました。(五)或日女中が今日お辨當お持ちになりますかといふと此少女御飯を食はずに生きてる人間あるかへ。「あなたは人間で御座いますか。「人間だから學校に行つてお稽古するてないか。この頃は猿でもお稽古いたしますよ。此の少女は怫然として怒りました。此は聊尤てあります。(六)姉さんが黙つて此の少女の鉛筆を使ひました。それを知つた此の少女、鉛筆を返して下さい」といつたら姉は無くしたと答へました。すると腹を立て、姉の椅子をひつくりかへし机の本を掻き散らしたことを私は見ました。

忿怒の取扱  
(イ)豫防せよ

(七)郊外教授があるといふ前夜此の少女いろ／＼の準備をして持參すべきもの悉く一緒にして置きました。暫くしてから見ると折角のお菓子が無くなつて居たので切度姉が匿したに相違ないと思つたてせう。姉の荷物を隠して知らん顔をして居りました。所が今度は姉の方で大騒ぎ。それを母に知られて翌日の郊外教授は二人とも缺席させられましたと私は後に母親から聞いたことがあります。こんな例を擧げて居たらその煩に堪へないてありませう。總じて少女の忿怒は少年の如く過激になつて我を失ふやうなことは少くありますが小さな忿怒でも永く持続しますときには嫌忌復讐憎惡の情となるのであります。少年の忿怒は縦令強くとも唯一時であります。少女の忿怒は平靜であつて時に永久であります。此意義に於いて次に忿怒取扱の方法を講じませう。(イ)忿怒せぬやう豫防するが第一法であります。それには忿怒を惹起すべき原因を除去することを先づ心掛けるが可いと思ひます。即ち父母教師は常に温かき同情と厚き親切とを以て公平無私に取扱へば彼等は不知不識の間に其徳化を受けて



(ロ) 和げよ

些細のことに忽ち忿るといふ様な風は無くなるのであります。温風吹き渡る春の海に激浪の立ち騒ぐ例は少ないと見て差支ありません。(ロ)既に一旦忿怒したならば之を和げる様にすることも良法であります。忿怒に抵抗して益々忿怒を重ねしめるのは少女を取扱ふ父母教師の處置てはないと思ひます。若し抵抗するならば寧ろ彼等の忿怒を縮小せしむる底の忿怒を父母教師の方で執るが良いのであります。然らざれば彼等の忿怒を成るべく他に轉徙せしむる工夫として其の忿怒を或種の運動に化せしめるなどの方法を取るも一法であります。一種の筋肉運動は必ず忿怒を他に轉徙せしめる効力を有するからであります。氣の利いた母親は忿れる少女に温浴をなさしめて平靜に歸せしめたと申します。巧なる教師は唱歌を課してその忿怒を和げた例を話します。坐して忿れるをば起たしめ起ちて憤れるをば歩ましめて忿怒を少くすることは經驗ある人の首肯する所であります。(ハ)懲罰を時に加へるも良いと思ひます。忿怒は思慮なく反省ないものでありますから懲罰は即時に効果ないとは人のいふ所であ

(ハ) 罰するこ  
ともせよ

りますがそれは多く少年についていふことであります。少女の忿怒は前に述べたやうに寧ろ平靜にして時には長きに互るものでありますから忿怒の都度相當の懲罰を加へることは必ずしも少年の如く無効でないのであります。併しその懲罰は人爲のものよりも自然に受けるものであります。蓋し人爲の懲罰は稍もすれば過酷に流れるからであります。例の少女姉と喧嘩して 意地わるの姉坊。ばか。どつちが馬鹿。そつちが馬鹿。と争ひして居ると二人とも母親に強く叱りつけられたが此少女堪へ切れず母親に向ひ 馬鹿でもいい。といひ放つて泣いたと申します。馬鹿でも可いならば最初から姉と争ふ必要が無かつたのであらうに過酷な懲罰はこの少女をして自暴自棄に終らせるやうになつたのであります。凡て懲罰は自然に出た様にするのが少女取扱の妙法であります。然らざれば忿怒の情が去つて後彼等の反省を喚起して徐々に懲罰を加へるに如くはないと思ひます。

(ニ) 獎勵する  
こともせよ

以上は忿怒取扱上専ら消極的な禁止の方面でありますが忿怒は全然禁



止すべきものでありませんので (二)寧ろ大に獎勵しなければならぬ點も  
あります。即ち不義不正に對して忿怒する如きは道德的要素を含むもの  
でありますから之を禁止するのが却て間違であります。少女の不活潑に  
して而も他の不正に對し抵抗すること出来ないやうなものは將來の社會  
生活に適せぬものであるまいかと私は思ふのであります。素より憤怒は  
非社會的感情でありますから之をその發動に任すと少女をして大なる不  
幸を蒙らしめ其結果は怨恨嫉妬悲憤各種の不快なる感情を惹起せしめま  
す。故に之を抑制すべきは勿論でありますが又他人の壓制暴慢譎詐不義  
等に對して忿怒すること出来ないやうでは少女自身の存在をも失ふやう  
に信じます。上流社會の女子が其身の嗜の爲に忿怒を劣等感情として只  
管制抑せんことを努めるのは一面堪忍大度なる所以で其品位を保つに必  
要なる如く考へるやうでありますが私は未だその利害損益を判定しかね  
るのであります。社會若くは人類一般の不義不正を糺して強固なる制裁  
の下に健全なる社會發達をなさしめるには却つて忿るべきに怒りそして

忿るべからざるに怒らぬといふ其の態度が寧ろ必要ではありますまいか。  
即ち正當防衛なるものは公憤によつて全うし得るではあるまいかと考へ  
るのであります。よく人が私は他人と争ひ喧嘩したことはありませんと  
いふのは必ずしも賞めたことではないと信じます。争ひ喧嘩することは  
勿論善い事ではありません。併し争ひすべき所に争ひ喧嘩すべき所に喧  
嘩をせんければ却て身の耻辱になります。戦争すべきに戦争しなければ  
國辱となると同様で寧ろ己れの怯懦を現はす様になるのであります。耻  
辱を忍び怯懦を暴露しても尙且つ忿怒せぬ少女あらば父母教師はこれが  
教育に餘程の注意を拂ふべきものと信じます。例の少女私に向つていふ。  
私の級の方の横着なものには呆れました。私共は先生から讀本一課を終へ  
ますとその新字を残らず帳面に書き取つて其れを先生に出すやうにと  
申し渡されてをります。私は本當に忘れぬ限り今まで一遍も怠つたこと  
はありません。それに私の級の大抵の方は何時も書かないで忘れました忘  
れましたと先生に申上げて一時逃れをして居ります。今日も先生に催促



されたら書いて置きましたけれども持つて来るのをつい忘れまして申上げて先生を胡麻化しました。忘れたのではなく書いて無いことは誰にも譯つて居ますのにそんな嘘をついて平氣でゐるのであります。私は心に憎らしくつて仕方がありませんでしたけれども告げ口するのも悪いと思つて口惜しい胸を押へて我慢して居りました。それに一時間濟んで休憩時になつて外に出ますと憎らしいではありませんか今日も先生を胡麻化したと皆さんが口々にいふのであります。私は毎日友達としてゐる自分の級の方がこんな悪いことする様では駄目だと思ひまして皆さんと喧嘩しても可いからそのことを先生に申上げやうかと思つて教員室の側まで行きましたが生憎先生が居りませんので止めて仕舞ひました。けれども晝食休みに二三人のやはり私と同じ様に考へてる方々に話してあんな方々とは遊ぶまいと約束を致しました。今日ほど口惜しく憎らしかつたことはありませんと申します。そこで私は人は怒る時には怒らなければならぬ。只今の話の如きは十分怒つて級の人々を懲してやつて可

## (五) 放恣の性質

いことである。併し先生に告げる前に親切に忠告して上げる方が尙可い。それでも聞かぬ時は申上げるも悪くはない。と諭しましたら喜んで居ました。此少女常に半襟を氣にする癖があります。或時父に お前は抜け首みたいに襟ばかり氣にしてゐるね といはれて赤面しましたが同時に怒つた様でありました。後になつて聞いて見ましたら お父さんが男の癖にあんなことおつしやるから怒りかけたけれどこれ位のことには怒るの氣の小さい人だと思つて止めましたといひました。私は此の少女の忿怒に對する緩急その當を得てるに敬服いたしました。これ位に忿怒の抑制保存を自らなし得る様教練して置けば先づは誤りなからうと思はれるのであります。第五に申したきは放恣であります。放恣とは俗にいふ我儘のことと少女が身體自然の發育に伴ふ活動と精神に適應せる愉快とが過度に昂上する爲に少女の舉止動作が自ら粗漫に流れて他に迷惑を及ぼす様な行爲をいふのであります。換言すれば少女の感情と行爲とが極めて親密で一旦感情が内に動く時には思慮判断の少しも加はることなく直



に行爲に現はれるをいふのであります。感情横溢の結果直様行爲になるものと見れば一層領會し易う御座います。何か一寸したことが出来ること忽ち笑ふ少女も能くあります。矢張我儘の例に洩れません。併しながら笑ふのは泣く我儘より頗る取扱ひ易くありますから大抵の場合は大目に見る人もあります。唯好笑は泣く我儘よりも人に傳播し易いものでありますから此點は注意を加へなければなりません。さりとて懲罰を以て臨むまでの事もなく極めて温和なる態度に於て眞面目に之に對すれば直様改まります。萬一改まりませんならば靜かに人なき一室に移らしめると閑寂なる爲に忽ちその笑を底止するものであります。けれども放恣は前述の如き無意的なものに止まらず一步進めて有意的に行はれることもありますから父母教師は此に對して甚大の注意を拂ふべきものであります。所謂少年の惡戯と稱するものは多く此の有意的放恣に外ならぬのであります。此れは嘗り少年ばかりでなく少女にも頗る多く見る例であります。蓋し十一二歳より十五六歳までは體力の發達極めて熾んで今迄何事をす

るにも人手を藉りるか若しくは手助けを受けてばかり居たものが急に自分の力を感出し出して少年ならば擊劍柔道游泳少女ならば體操遊戲掃除等悉く自分で仕終うること出来るのみならず精神發達も著しく増加して天地現象を始めとし人事上のことも其の理智によつて驚くべき理會を爲し得ますから從來人任せ若くは模倣的行爲に過ぎなかつたものが諸種の計劃を立て、新しい行爲を企てるといふ様になるのであります。即ち少年少女の内に潑刺として溢れんとする生氣は禁ぜんとして禁ずる能はず抑へんとして抑へる能はずこゝに於て規約を破り禁制に背き危道を踏み冒険を試みるといふ風になるのであります。少年の人言を顧みざる。大人長者を物とせざる。少女の生意氣にして父母の命を奉ぜざる皆此の類であります。若し之を嚴責などするならば彼等は父母の前にあるを窮窟なり五月蠅いとして家に在るを屑とせず外に出て、其の放恣を逞うするものであります。少女に在つては少年と稍趣を異に致しますけれども稍もすれば父母に抵抗し若くは之を怨む様になるのは此れが爲てあります。



然れども少年の放恣は其性質たるや極めて卒直にして根帯なく寧ろ罪のないものであります。少女の放恣は猜忌的嫉妬的で頗る複雑なものであります。寧ろ罪の深いものであります。

次に放恣取扱について申しませう。先づ(イ)思慮を加へる様導かねばなりません。放恣の無意的なるは永き習慣の結果によらなければ矯正すること出来ませんが其有意的なるものは思慮を加へて之を抑止するが可いのであります。思慮的習慣は道德上頗る緊要視すべきもので何れの行爲にも無ければならぬものであります。放恣に於いて殊にその必要を見ると思ひます。私は道德上の修養をば只一つの思慮なる詞によつて期し得られるものなることを常に感ずるのであります。古人の「日に三省せよ」といふたのも此義に外ならぬと思ひます。感情の熾に反動する時思慮を加へることは頗る不自然で難中の難といはれるかも知れませんが之を行爲に現はす時に只一旦の思慮に止めず再三考慮すといふ習慣に導きたいと思ふものであります。次に(ロ)時機を誤らずに矯正の勞を取らねばならぬ

放恣の取扱  
(イ)思慮を加へしめよ

(ロ)時機を誤るなかれ

といふことを申したいと思ひます。少女精神の發達上避くべからざる階段として實際優良なる少女にも往々此性は免れません。然れども只夫れ避くべからざるものなりとして父母教師に於て之が矯正の手段を盡さず看過傍觀しますと詰り彼等の我儘を黙認したことになりすから不規律不秩序の生活をして益々其弊に走らしめ或は遊惰疎漫のものたるを避けること出来ぬ様になるかも知れません。此くの如きは少女をして天然に此弊習に陥らしめるのみならず父母教師が又人爲的に之を助成するものといふ誹を免れません。畢竟放恣を傍より催進せしめる意義になるのであります。此を以て此等の弊風を除去すべきは正に今なりと覺悟したならば決して之を看過することなく此れが矯正に努力すべきものと思ひます。然れども(ハ)決して峻嚴過酷に失せず穩健に處理せんと思ふが肝要であります。暴を以て暴に報ふる如きは父母教師の特に戒しむべきものであります。何となれば放恣は既に自然の發動であることを認許する以上寛大に之を取扱はずに過酷にする時は少年は勿論少女は必ず自分の行

(ハ)峻嚴に過ぐべからず



爲の善悪は措いて之を處理する父兄長者を怨まないとも限らないからであります。溫和にして首尾一貫せる處置には假令彼等の暴戻といへども心服の美果が生じます。然れども茲に注意すべきは放恣の行動中には齡長じて自ら矯正せらるべきものとそれから矯正せられぬものとの二種あることを承知すべきこととあります。長じて矯正せられるものならば殆んど自然に放任しても可いが若し矯正せられぬものであるならば峻嚴な處置を加へて之を處理すべきであります。緩漫柔弱なる手段は此場合殆んど寸効ないと信じます。殊に少女によく有るすねる如きの性質は絶對的に之を禁止しなければならぬと思ひます。大抵の父母教師は少女の此の性質に大方は負けてその放恣を貫かしめるものであります。其の時のみならず後年に至りても頗る有害なる印象を留めるものであります。から必ず之を抑制しなければなりません。若し抑制しなかつたならば女子の美德たる貞淑なる品性の如きは到底望むこと出来ないものであります。人或は此の性質も年齢長ずるに従つて自然に改まるものであるとい

ふ人ないでもありませんがそれは只外觀に過ぎないので所謂一時盛裝して人を驚かすのみで其眞性は時々機に觸れて發露するものであります。従つて此性質は少女時代にあつては假令萌芽に過ぎざるにせよ嚴に之を喰止めるべき部類に入れなければなりません。此外他人の物を横領するとか或は誤魔化して使用するとかいふ性質の如きも長じて盜癖を養ふものでありますから矢張り此部類に入れ置く必要ありと思ひます。之を要するに少女の放恣は身心伸暢の證據でありますから必ずしも強き檢束を加へなければならぬとも限らず。又何時も放任して置けともいへないのでありますが大體論としては穩健に之を取扱ふを以て原則とし唯道德上危険を生ずる様な場合に至れば容赦なく嚴重に制裁を加へよといふに在るかと思ひます。私の知人て學校教育に長き經驗を有する某が曾て私に語つて凡そ子供には何時でも又何事にも制裁のあるものなることを承知せしめ置かねばならぬ。假令愉快極まる遊戯を遽に中途に止めさせられる場合でも聊の不平もなく寧ろ快く之を止めて平然他の課業に就き得る



様な自制心あらしめる丈に訓練を施し置くべきもので學校訓練は此に至つて始めて其目的を達し得たといふべきものである云々。といはれたが私は少女の放恣取扱に就ては大に此の意見に賛成するものであります。放恣のことは此れて終りといたませう。

六) 高慢  
(自負)

第六にいふべきは高慢であります。此の情は自己を以て他人より優等なるものとし己れ自ら高く位置を据え他人を卑下するものをいふのであります。此の情も主我的感情の中で重要な地位に立ち自己存立には中々大切なものであります。殊に少女に在つては自己の存立が多く人に頼るものでありますから若し自分に何か頼るべきものありとすればそれを人に誇示することは少年に比して遙に多く且つそれが自然に必要かと思ひます。成人から見れば其の稚態誠に笑ふべきものであります。少女自身に在つては少しも周囲を顧みないばかりか寧ろ滑稽なるほど露骨にこの情を表示するのであります。而も自身に恃む所あつての事ならば致し方ないと思ひ諦めますけれども自身には何等の恃む所なく父母の身分とか

## 高慢の性質

兄弟の富貴とかを宛にして之を誇示するのであります。富貴に生れ顯榮に育つたものに此情の多いのは此が爲であります。然らば貧家の兒女には此の事ないかといふと決してさうでありませぬ。如何に貧窮な家に住んでも必ず此の情を認めます。何時ぞや萬朝報の一口嘶に見えたのであります。それがそれは巡查の子が其友に向つて 僕のお父さんは一番偉いんだぜ 街を歩いてゐる人はどんな人でも僕のお父さんが左り左りと指圖するとみんな左りに寄るんだからね。といふと水撒人夫の子がそれを聞いて 僕のちやんは君の父さんより偉いぜ。ちやんが通ると君の父さんも切度避るといふぜ。といつたといふこととあります。私は當時之を見て如何にもと領ぶかれたのであります。俗諺にも疝氣と慢氣とは無いものがないと申しますが實にその通りであると思ひます。つまり世を擧げて此の情に驅られない人はないのであります。而も世人が甚しく互にその醜を感ぜざる所以のものは人の性情に街氣があるからと思ひます。高慢に就て茲に辯じ置かなければならないのは自負との相違であります。自



負は殆ど高慢と區別し難いものでありますが自負は自分に多少恃む所あるより生ずる情で高慢に比し稍高尚な所があります。即ち學術知識技能體格若くは地位等につきて多少他より優秀なる所あるより他に誇示する所以のもので高慢に比し道徳上の罪が稍軽いものであります。然れども高慢にせよ自負にせよ其の頼る所に多少異なりはあつても外觀に現はれるものは尊大倨傲無禮無耻等でありますから他人が其の頼る所を推知し得ざる上は外觀だけ全く同一に受取られるのであります。それで次に此の二つを合せてその取扱方を申しませう。先づ(イ)高慢の原因を取調べねばなりません。何となれば高慢は大方人爲的に之を作出するからであります。例へば父母が暴に富を作るとか或は偶然の幸運に遭遇し社會上の地位を得るとかつまり正當の順序手續を経ないで富貴顯榮を身に受けるると其の子女殊に少女は忽ち高慢に捕へられて友人同輩に誇示するに至るものであります。既に人に嫁して數多の子女を有し餘事には相當の見識ある婦人でも良人の出世などに關しては多く同輩に誇るものであります

高慢の取扱  
(イ)原因を調べよ

す。況して少女の如き單純なる心情生活を營むものに在つては當然であらうと思ひます。併し父母兄弟の富貴顯達は寧ろ他人に向つて謙讓の徳を養ふべき手段とこそすれ決して人に誇示すべきものでないことを嚴に心掛けしめねばならぬのであります。能く事變に遭遇して俄分限者換言すれば成金となる人も少くはありませんが此等の人の子女が之を鼻にかけて人に誇示する様なことがあれば却て唾棄せらるかは知れんが一も尊敬せられることが無いかと思ふのであります。管にかゝる成金のみならずすべて正當の順序を経て正當の地位に到着したものでなければ即ち何事でも只空虚でなく充實したものでなければ決して安んじ得べきものでないことを心に記して修徳の道を講せしめなければならぬと思ひます。不義の富貴は浮べる雲と申したのはこの事であることをよく心肝に銘ぜしめねばなりません。近來生活上種々の慘害を呈する所以のものを見まするに何れも堅實なる基礎に身を置かなかつた人々に限るやうであります。此等のことは殊に虛榮心の強い少女に教示し置く必要があると信ず



るのであります。私の古き同窓に頗る放膽な元氣のよい友が居ります。困阨に困阨を重ねたが其志望の強固なことは困阨の中にも米國に遊學を企て學成つて歐洲を遊歴し數年前歸朝して遂に彼地で學修した所に由り身を實業界に入れて大連にて商人となつたのであります。爾來頗る得意で商業も次第に繁昌し相當の富を作つた様でありましたが此頃俄にそれを止めて歸朝しましたから其理由を聞き糺すとこの友はかう私に心中を打明けました。商業は利益を中心にする。利益の爲には人を賣ることが出来ぬば利益を收め得ないばかりか却て損をする。我等の中には基礎を道徳に於いて堅實に遣つてゐる人ないでもないがそれ等は何時か損失して立ち行かなくなる。近來海軍事件の大きくなつたのも其の本は商業道徳の腐敗にあるので誠に痛嘆の至りだ。元來自分の商業に對する觀念は現實の商業界とは頗る懸絶してゐるから自分の如きも此儘にして居れば遠からず失敗するかも知れない。そんな危険な所に身を置くよりはやはり堅

實なる教育界に這入つて商業界は勿論各種の社會に出る人物の養成を道徳的に謀らなければならぬといふ觀念が非常に強まつて來た。昔の經驗もあることなれば再教育者になりたいと思ふ。經濟上の得失の如きは今顧みる價值がない。要は唯道徳的堅實の人物を養成するに在る。而もその道徳的人物の養成は失禮ながら今の如き學校教育では駄目だ。勿論社會教育も可くない。只家庭教育に期する許りである。從て女子教育に従事する人の如きは大に自重しなければならぬといふのであります。昔日の放膽に似ず極めて敬虔に心情を吐露しましたが私は此の人の口から此の言を聞いて寧ろ驚いた。否仰天した位であります。併し寡聞な私には之を反駁する程の材料は勿論ありません。のみならず其言ふ所如何にも眞摯なので私も痛く感に入つた譯であります。此話は直ちに少女の高慢と何も關係はありませんから茲に記す必要ないかも知れませんが只高慢の取扱については少女を堅實に養成しなければならぬといふ一例に引いたのみであります。次に(ロ)高慢は之を寛假してはならぬと思ひます。第

(ロ)寛假すべからず



三章想像の場合に於いて既に言明せるが如く少女は頗る想像に強いものでありますから時によると能く正當な想像を離れて妄想の弊に陥ります。この妄想から遂に高慢を導いてまゐります。それで妄想は決して之を寛假せず矯正すべきであります。父母教師が猥りに少女の妄想を鼓舞して少女をして如何にも自分は他より卓絶して居るかの如き誤解を抱かしめ漸次に高慢を増長せしめる弊無いてもありませんから決して過分に彼等を愛し若くは信用するが如きことをせず常に監督しつゝ彼等の好伴侶たるの態度に出づるを可いとするのであります。然れども(ハ)彼等に不信用の態度を示し高慢をば何時も撥斥するといふ考を起さしめてもなりません。何となれば高慢心の熾んに起り來た時此る態度を示して之を直様排斥しますと少女は失望落膽して遂には自暴自棄の状態に陥り訓練の効を見ない様になるからであります。故にかゝる場合に在つては少女をして自ら信ずる所を行はしめ其の結果の當然不成績に終るのを待つて彼等が自身に羞耻慚愧の情を感ずるに至り始めて訓戒の幕を開けば可いので

(ハ)不信を表すべからず

(ニ)上流の少女に多し

あります。さうすれば彼等は既に嘗めた苦い経験の爲に自分で大に反省するに違ひありません。茲に於いて彼等の妄想は自ら緊縮せられて後來の戒めとなすに至るてありませう。故に高慢は之を一概に排斥も出來ず又獎勵も勿論致すべきではありませんから父母教師は能く其時の事情に鑑みて適當なる處置をすべきものと信じます。次に(ニ)高慢は上流の少女に多いから此等少女に對して特に取締らねばならぬのであります。一體社會組織の強固ならぬ國の運命は頗る悲觀すべきものであります。その強固ならぬといふは主として上流と下流と融合を缺くに在ると思ひます。而して此の融合の缺如は上流人士の高慢不遜と下流人士の美望不平とが其の因をなすこと古今東西の歴史が之を證明して餘りあります。今下流人士のことは措いて言はぬとして茲には主として上流について申しませうが上流の人士は其地位と其富力と其智力とが下流人士に優り只體力だけが劣るのみでありますから稍もすると高慢不遜に陥り易き境遇に在るといはねばなりません。而して無邪氣な少女は直ちに之に見倣ひますか



ら高慢の弊風が自然と感染するのであります。一旦感染すれば之を除去すること頗る困難なばかりか其周囲のものが寧ろ從屬して其高慢を助成する様になりますから其弊の極まる所實に大なるものあると信じます。そこで上流の父母は勿論之を圍繞する人々は能く其の少女を訓誨して其地位資産が如何に他に卓越すともそれは直に少女の卓越を示すものにあらざることを知らしめ寧ろ進んで謙讓の徳を養ひ禮儀を重んじ貧者を卑しむことなく却て自力自立己に恃む所ある人を尊敬すべきものなることを悟了せしめたいと思ふのであります。此こと一たび少女に理會すれば後年の社會組織は強固ならざるを憂ふることはないと考へます。我が國目下の状態については具眼者の頗る注意を要すべきものあるを信じますから上流人士の調和心は此場合極めて必要なりと同時に其子女教育も亦此方針に出てなければならぬことを思ふの餘り此に一項を設けた次第であります。最後に一言すべきは(ホ)自重のことてあります。自重は一寸見ると自負と同一に見られますが全く違ひます。即自重は自己の優越を真正

(ホ)自重と誤る勿れ

に認知する時に生ずる快感で人をして奮勵進歩せしめる所以のものであります。故にこの情は少女をして其品行なり學術なり地位なり門閥なり他より自分は優秀なりといふ感じを持続せしめて快く何事にも當り得られるやうに導きますので少女に取り又少女教育に取り極めて大切なものであります。故に少女自身について若し自重すべき所以の品行とか學力とかを有するならば父母教師はよく之を賞讃して彼等の名譽心を養成するの可いのであります。只名譽を欲するの極他人の賞讃にのみ由りて行動し遂に人に諂ひ世に阿る如き或は賞讃の伴はぬ場合は自己當然の義務等でも之を放任するといふ如き行爲のないやうにしなければならぬと思ひます。學校教育に於いては常に少女をして人生は頗る困難なものである。此の困難に處して少しも屈せずよく勝利ある生活を營み立派な人生を遂げんには人に頼らず自ら恃んで何事にも當るべきであるといふ氣力を養はなければなりませんから凡べて彼等の課業は他の力を藉らずして自力で解決する様に導きたいのであります。即ち獨立獨行の精神を養



ふてなければ將來の處世は困難なものであると覺悟せしめ優柔不斷は常に劣敗者たるを免れないといふことを十分に教へ置きたいと思ふのであります。此を以て少女をして恃むべからざるを恃んで自負高慢の心を持せしめるのは非常に悪いことであります。恃むべきを恃んで何事にも自力で解決して行かうといふ勇猛心は必要なものとして是非是れを養はしめねばなりません。是れ自尊心の少女に大切なりといふ所以であります。然れども此自尊心は少女時代の初期より養成すべきものでなく、自己の價値を認識し得たる時より始むべきものと思ひます。あまり早く始めると或は自重の境を越えて高慢自負に陥るからであります。併し學校では假令早過ぎても友人の制裁もあり又少女自身も自分の智的判斷を加へること家庭より多くありますから其弊はあまり甚くはなりません。家庭で早過ぎると少女は周囲の制裁も少く且つ家庭は智的生活よりは情的生活をなす所でありますから不知不識の間に我儘氣儘のものとなつて取扱上頗る困つた結果を生ずるに至るものであります。然るに世の大抵

## (七) 嬌飾

の父母は意を此に注がず僅かのことに我子優れりと見て容易に彼等を賞めはやすが爲に彼等は遂に濫賞に馴れその自重は却つて祖まれ濫賞するてなければその義務をも進んで果すことないやうになる例を往々見るのであります。私は家庭に於ける自尊心取扱は頗る注意を要するものなることを警告して本項を終ります。第七として嬌飾の情を一言して見たいのであります。此の情は外見を飾るに依つて自分の心身が何等人に卓越せる所ないにも拘はらず如何にも卓越せるが如く人に見せしめ中心の喜悅を買ふ所以のもので少年よりは頗る少女に多いものであります。假令少年に此情があつたとしても彼等は全く根抵なしのことはせず必ず何所かにその恃む所の若干が潜むて居るものであります。少女に在つてはそれが皆無なる場合多いのであります。そして少年の嬌飾は大方才能技藝について誇止するものであります。少女に在つては全く之と異なり多く容貌とか衣服とか若くはその所有品とか即ち容易に人の耳目に觸れ易いものに就て誇示するのであります。故に少年は措いて問はず少女にし

## 嬌飾の性質



て早く此情に捕へられる時は彼等が當然爲すべきことを全く爲さず只外見に走つて内を省みないといふ結果に陥るのであります。少女期に在りては或はかく甚しくならぬかも知れませんが此の期の終り頃より漸く粉飾に其身を窶して或は終日鏡面に向ひ或は一日數回入浴するといふ例も少くないのであります。故に此の情の極する所は虚偽となり譎詐となり狡猾となり遂に竊盜者となるものであります。殊に現今の社會進歩の趨勢を顧みますと精神的進歩の方面よりは物質的進歩の方面が遙に優るものありますから少女の虚榮心を煽つて此の物質的進歩を日常生活に利用する念慮を燃ゆるばかりに熾ならしめ及ばぬ鯉の瀧登りを演ぜしめるのであります。妙齡に至りては此情殊に頂上に達しますから早く少女時代から此等に就いて十分の警戒を加へ置かねばなりません。扱て其取扱法てあります(イ) 嬌飾は決して賞揚してはなりません。勿論誰も嬌飾を賞揚する人はありますまいが併し嬌飾にも何か恃む所あつて然りとすれば此の點に向つて或は賞揚しないとも限らないのであります。一體嬌飾

嬌飾の取扱  
(イ) 賞揚すべ  
からず

(ロ) 眞實の觀  
念を持せし  
めよ

を好む性質の少女は他の賞揚を得んが爲に稍もすると諂諛を試み良い子と言はれたい爲に各種の迎合をなすものであります。況んや多少にても自分に恃む所ありとすればその得意とする所を他人の前に提供して自己の能に誇るものでありますから若し誤つて之を賞揚しますと少女は得たり賢しと一層嬌飾を恣にする様になります。斯くの如きは益内を捨て、外に奔り已なくして唯人あらしめるものでありますから之を賞揚する如きは絶對的に不可ないのであります。寧ろ之を詰責して僥倖は身を持し世に處する所以に非ることを深く警戒して置くべきと思ひます。(ロ) 眞實の觀念を平素持せしめねばならぬと思ひます。此れ亦極めて大切なことてあります。一體少女が嬌飾の情を持するは一は彼等の天性自然に出る場合もありますが父母教師及其周圍のものが不用意の間に之を助長せしめることも決して少くないのであります。富貴の家に生れ數多の人に圍繞せられて成長した少女換言すれば上流社會の子女に此情の強いのを見ても譯るのであります。即ち上流の子女は僅少の長所も誇大に賞揚せら



れ多大の瑕疵も寧ろ僅少に或は絶無に取繕はれて常に周囲者の爲に追従せられますからその極虚偽者となり否虚偽者たるを知らずして眞實者なりと誤解し眞か偽か容易に制定すること出来ない様になるのであります。それで嬌飾者に對しては事實の眞偽につき明白な觀念を持たしめ人生は眞にして偽にあらざること偽は少女の大なる不利益なることを牢記せしめ何事にも眞面目に當り得るやう習慣つけねばならぬのであります。嬌飾者は恐らく眞の貴重なること偽の卑しむべきことを知らず眞偽宜い加減に處理する人に多いかと思はれます。そこで學校教育は是非とも事實により眞偽に訴へて處理すべく決して空論に終らしめてはならぬのであります。(ハ)偉人傑士の實例を示すのも非常に有効と思ひます。偉人傑士といふのは所謂英雄豪傑の士といふてはありません。假令英雄豪傑でも眞に尊敬すべき所以のものがなければ素より模範とは致されません。即ちこゝに偉人傑士と稱するのは眞實を以て其の生命とし正を踏み義を行つた人道上の非凡の人や或は學問藝術等に其身を獻げて人類社會を裨

(ハ)實例を示すべし

益した傑出の士をいふのであります。換言すれば眞に人生を味つた人といふ意味であります。此等の人の生活は素より寸毫の虚偽がありません。人生を一日一時も試験的に經來りません。かゝる人に於いて始めて最尊敬すべき模範を垂れ得るのであります。故にかゝる實例に由つて彼等に示教すれば如何に無心の少女といへども茲に自省の徳を養ひ克己の性を鍛練し得て力は弱くとも精神は非常の勇者となるを得んかと思ひます。精神上の勇者となり得たならば嬌飾の如きは自然に征服せられるのであります。偽善の誘惑に伴はれません。虚榮の深淵に陥りません。斷々乎として之に抵抗しかくて始めて人生の完成を期する基を作ります。嬌飾の弊は大正の今日各方面の社會を通じて瀰蔓してゐやしないかと私は竊に怖れて居ります。それで重複ながらも茲に數言を重ねました。

最後に個人的感情の第八として喜悅の情を述べたいと思ひます。此の情は或る事物が吾人に快樂を與へた時に生ずる感情で循血が活潑になり或は笑ひ或は跳り上る等の徴候によつて外部から推知することが出来るも

(八)喜悅

喜悅の性質



のであります。然れども此の情の由來を今少し根本的に考察しますと只外部から或事物が快樂を將來したといふだけでは足りません。寧ろ内に有する勢力が適當に外部に費消せられた時に感ずる愉快の情であるといひたいのであります。故に此の情は心身の健康な少女に在つてはその薄弱なものより常に熾んであつて若しその内部勢力が外發すること出来ない時は非常に不愉快を感ずるのであります。それで健康な少女になるとその勢力が益困難な事に由つて發表せられることを好み而して其の困難に打勝つに由つて自信が高まり同時に大なる満足を感じるのであります。これ少女期に於ける初期の少女は少年と少しもその活動異ならぬ所以であります。女子學校に於いて少女が常に男教師に接近し且つ之を喜ぶ風あるは男教師は比較的女教師よりも少女の活動性を利用せしめるからであります。それを人々が種々に曲解して異性を愛する情が然らしめるとか或は男教師は少女に對して嚴格でなく甘やかすからであるとか申しませんがまだ、皮相の見てあります。勿論男教師は少女取扱に就いて女教

師に及ばぬ所多々あります。殊に少女の弱點を洞察して其適法を講究し且つ之を以て少女を律せんとする所などその妙味到底男教師の模することさへ許さぬものあります。然れどもこの長所は又同時に女教師の缺點であつて之が爲に少女の匿れたる部分はいよゝゝ匿れて仕舞ふのであります。少女が男教師に對して常に露出的開放的であつて比較的内外表裏の別ないのは此れが爲であります。今私は男女教師の比較優劣を判する譯てありませんからこの問題は措きますが要するに少女のこの勢力は非常に猛烈であつて従つて之を猛烈に發表すれば甚しく喜悅を感ずることになるのであります。換言すれば少女は少年と同じく勢力の大なるを好みます。即ち勢力を愛します。男らしきを欲します。私が曾て某少女團體に男が可いか女が可いかと質問しましたところ一同は異口同音に男が宜しう御坐いますと答へたのであります。私は次いで何故かと反問すると男は窮屈でありません。男は自由になります。男は叱られませんが男は能く遊べます。男は琴やピアノを習はずとも宜しう御座います。男



喜悦の取扱  
(イ)常に持續  
せしめよ

は活動寫眞も相撲も見に行けます。男は旅行も勝手です。男は一入で何處へても行けますといふ様に答へたのであります。如何に少女自身が我身を呪ひ居るかといふことが譯ります。而して其の呪ひ方は唯少女なればこそ我に内在せる勢力をも自由に利用すること出来ぬといふ點に歸して仕舞ふのであります。私は何となく氣の毒な感じを致しました。それで私は此の勢力を適當に外部に發表して常に彼等をして喜悦の情に満たしめねばならぬと思ひますから次に二三の取扱方について申述べる事に致しませう。(イ)喜悦の情は常に持續せしめたい。この情は前にいつた通り神氣を昂上せしめ身心の健全を増進せしめるものでありますから少女をして常に喜悦の情態に在らしめる様にし成るべく彼等の勢力を自由に發露せしめて内に潜在することを避けしめねばならぬのであります。かくすれば少女は自ら發奮努勉して能く何事をも成功せしめるに至ると思ひます。即ち此勢力の發露は少女を向上せしめ發展せしめる所以で少女の性行も此に練磨せられ其智識も此に啓發せられ且つ其の體力も此に増

(ロ)勢力の發  
露を緊縮す  
べからず

進せられて少女他年の幸福は悉く源を此に發する様になると思ひます。それには常に彼等の勢力を適當に利用して喜悦の情に充てる様導かねばなりません。従つて(ロ)勢力の發表をあまり緊縮してはならぬのであります。少女教育者が能く彼等を大人しく否女らしくしたいが爲に此の勢力を適當に利用することを努めないで一も二もなく只勢力緊縮を旨とし少女をして早く既に成女たらしめることは決して賞めたことではありません。否非常に悪いことであります。少女を取扱ふ力量ない父母教師は稍もすると只早く少女を躡けようとのみして徒らに彼等の勢力を抑制し勝ちのものでありませうが少女は悲しい哉大人の吩咐でありますから心ならずも之に黙従は致しますけれども之が爲に心身自然の勢力を害用するか然らざれば強いて之を抑へますから精氣のない元氣の見えぬ雛壇の人形の様になるのであります。併し人形で終ればまだ害はないから宜しう御座います。抑制の結果は不愉快となり苦痛となり遂に不満を來し不平を醸し非常なる惡結果を生ずるに至らしめるものであります。現今到る所



の女子學校で能く精神の無い只形骸のみの卒業生を出すのは全く此れが爲と思へるのであります。家庭といひ學校といひ少女訓練の第一義は彼等の勢力を積極的に利用するにあるので害用することは避けねばなりません。少女束縛の可なる場合は勿論無いではありませんが大方は其舒暢を主とすべきであります。家庭は法律に由つて立つてゐる法庭でなく學校は其を緊囚する牢獄ではありません。學校教育の不結果は多く此る所に胚胎してゐやしまいか。私は規則の不備よりも設備の不完全よりも少女取扱の理法に通ぜぬ學校教師ほど少女を害するものはないと確信致すのであります。然れどもかく言へばとて私は少女の行動を其勢力の横溢する所に任せて放任せよ自由にさせよ我儘勝手を許せといふのではありません。要は只少女勢力の利用を謀れといふのであります。次に大切なことは(ハ)學校教育にては其の何れの教科も喜悅の情にて取扱へといふことてあります。體操遊戯は勿論のこと圖畫手工唱歌書方等の技藝的教科に於いては尙更のことてあります。殊に遊戯の際少女の勢力を善用し愉快

(ハ)教科の取扱に注意せよ

に快活に之を課する時は彼等は茲に勤勉努力の習慣を養ひ得て其結果は他の教科にも大なる影響を及ぼすに至るものであります。嘗り此等の技藝的教科のみならず國語算術歴史地理等の教科に於いても教授が只口演のみに流れず常に實物標本模型其他の教辨を巧に使用することに由つて少女の觀察力注意力を刺戟し其本性を適當に發揮することが出来ますから彼等の勢力は適當に使用せられ茲に愉快の情を起しつゝ課業を終了し得るのであります。學校に於ける總べての課業が此の情態に在れば少女は常に全力を盡して仕事に當る習慣を養ひ得ますから嘗に各教科の智識を確實に收得するのみならず其の品性に於いても頗る見上げたものになるのであります。即ち正確誠實忍耐謙遜勉勵等の諸徳は大方茲に養ひ得るのであります。修身の時間に口を酸くして仁義孝悌を説いても彼等の勢力を利用することを爲さず只一場の講演に終る様のことありますれば彼等をして只修身は黙聽すべきのみと思はしめ甚しきは内に潜在せる勢力の利用法に窮し茲に虚偽矯飾不誠實倦怠等の不徳を醸成するに終るか



と思ひます。此れ常に喜悅を以て充たされたる少女は幸福といはねばなりません。が反對に勢力善用の出來ぬ少女ありとすれば誠に不幸此上ないといふ所以であります。

私は以上少女時代に於ける著しい主我的感情について一應その性質と取扱の大要を述べましたから次に社會的感情について數言いたしませう。此感情の主なるものは愛情と同情とであります。この愛情と同情とが外に發しますと頓て完全な忠恕孝悌の道德となるのであります。即ち君に對して忠。父に對して孝。兄に對して悌。朋に對して友。夫に對して貞となるのであります。實は少女時代に在つてはまだ眞の社會的生活を營む時期に達しませんから此情の發作は主我的感情の如く著しくありませぬので之を省略しても可いのであります。が併し家庭生活の意義も漸く悟了し學校生活に於いて眞の社會的生活に入る準備を與へられつゝあるがために入念に視察しますと此情の萌芽も随分著しく見え加之丁度少女時代は此等の情の基礎を與へますに最恰當なる時でありますから只大要だ

乙、社會的  
感情

## (一)愛情

## 愛情の性質

けなりと講述することに致したいのであります。扱て第一に愛情について申しませう。此の情は本來からいふと他人若しくは他物に牽引せられる感情で自己に快樂を與へる事物に對する利己的のものと説明する人もありますが併しその發動の有様を見ますと専ら他人若しくは他物に對して表はれる愛着不離の感情であります。されば此の感情は我々の社會生活を極めて圓滿ならしめる偉大な力を有するもので若し此の感情なければ人間生活は乾燥無味となり寂寞荒涼を感じ人生は少しも意義ないものになるかと思ひます。蓋し人間は同志相依り相助けて群居するものでありますから其の間に愛情の流露するものなければ人生は遂げられないことは申すまでもないのであります。愛情あるが爲に同志相倚るか同志相倚るが爲に愛情湧出するかは別に措いて問ふ必要もありません。或人は愛情の根源を温かな接觸に在りとし或人は他の無力を憐れむ心に發すると致しますがこの詮索も無用であります。母親かその子を懷抱して慈愛に至らざるなき。子がその親を尊敬して從順及ばざるを恐れるなどその最



も近きに發して遂に遠きに及ぶことは此の情の自然であることを記憶して置きさへすれば可いと思ひます。少女に於ては此情の發育流露は少年に比して頗る著しいものと信じます。次に數個の例を挙げませう。(一)電車の人込みの中にヨボ／＼の老人が乗つたのを見た一少女。忽ち席を譲つて自らは起つと老人が有難うといつたので却て極り悪る氣に下を向いたのを私は見ました。(二)俄かの雨で往來の混雜は一通りでありません。何處の小僧かは知れませんが下駄の緒を切らして困つて居ります。之を見た學校歸りの一少女。自分の袂なる絲切れ布切れを出して與へました。小僧は大層喜んで禮を述べて居りました。(三)散歩に行く途中と見えます。母に連れられた十三許りの少女でありましたがふと五六歳の男の子の泣いてゐる傍に寄り何故泣きます迷兒になつたんですかといふと愈々聲高に泣き出しました。少女は子供の帯に着けてある札を見てゐましたが遠くも無かつたでせうか母の許を得て其子を連れて行つた様でありました。(四)赤白の球を袂に入れて心の修養をしたといふ小學五年の修身書に

ある瀧鶴臺の妻の訓話をなした後に此頃自分で心に満足したと思つた行為はなきかと尋ねたら 九段坂の中段で十一二の小僧が目泣きはらしながら何か頻りに搜してをります。どういたしましたと尋ねますと私は今母の目薬を買ひに行く途中二十錢銀貨一枚失くしましてと申します。氣の毒でなりませんから造花の材料を買ふつもりであつたお錢を與へてやりましたら小僧は要りませんといひましたが無理に取らして私は歸りました。母にそのことを申し上げますと褒められましたので大層嬉しくありましたと一少女が話しました。此の四例の如きは通常有りふれたことで珍らしくも何もありませんが私は慥に此る愛憐の情の發作は少年に比して少女の方頗る著しいものあると信じます。蓋し女子は男子よりも寧ろ社交的生活の爲に作られた爲であります。何故かといふと女子は男子よりも孤獨生活に適しないからであります。男子の中には竹林の七賢であるとか虎溪の三笑であるとか市井の地を離れて山林生活を營む隠者もないではありませんが女子には此る例を聞くこと極めて稀なの



てあります。山雲を伴とし野鶴を侶として世俗を遠ざかることは女子には先づ無いと言はねばなりません。即ち女子は男子よりも孤獨生活に寂寞を感じるのてあります。従つて伴侶を求め好友を欲するは當然であります。果して然らば愛情の濃なるは女子の自然といふべく男子は寧ろ愛情以外他の性情について發達してゐるものと解釋するが可いのであります。併しながら愛情をかく解釋すれば女性の愛情は利己的のものとなる恐れがありますけれども必ずしも左様ではありません。何となれば女子には眞に犠牲となるものが多く高潔なる犠牲は寧ろ女子に限るといひたい位だからであります。彼等が兩親に對し又良人に對し或はその子女に對する如き最も其の然るを見得るのであります。傳染病者であらうが或は瘋癲病者であらうが身を挺して其危険を犯し之に近づくのは實に女子に限るてありませんか。殊に其の子女に對する場合の如き男子に比して比較にならぬ程勇者であります。猛者であります。女子の女子たる所以は母親となつて始めて全いものであるとは私の日常感ずる所てあります

實に母なければ子は育たぬといつても宜しい程であります。かくて女子の愛情は此より推して遂に廣く他人に及ぼすのでありますから其の愛情をば悉く利己的と見るのは不條理極むと思ひます。否寧ろ己を捨て、他に盡す犠牲的のものといはなければなりません。故に女子の愛情は女子に必然にして又自然のものであると斷言することが出來ます。果して然らば少女に發現する愛情の少年に比して濃厚なることも首肯し得るかと思ひます。愛情は此くの如く少女に必然なものとすれば其の取扱は最も注意しなければなりません。次に三四の場合に區別して陳述致しませう。(イ)愛情は之を自然にせねばなりません。いふ心は愛情は決して作爲してはならぬといふことであります。人は愛情の發露を以て少女の弱き側面の表現として卑しむのであります。此を以て強いて強からしめるのであります。少年ならば私は多少此の意見に服膺します。然れども少女に對しては絶對的不賛成であります。何となれば斯くの如きは頗る少女の自然性を害するからであります。尤女子も將來男子と等しく職業を取



る場合ないとも限りませんからその場合になれば女子自然の愛情も漸次乾燥して男子と同様になりませう。その時は論外であります。故に少女時代に於いては愛情を以て女子自然のものとし之を保護撫育して少女自然の性情を害せぬ様に心掛けなければなりません。次に(ロ)愛情は之を實現せしめたいのであります。已に少女の愛情は自然であるとすれば其の源は滾々として盡きぬものであります。病人の上にも貧者の上にも流れてその恵の露に浴せしめる底のものであります。之れあるが爲に其發露實現は少女をして特に優雅艶麗ならしめる所以と思ひます。其の眉目は美しきものなきも全身より光輝を發して隨喜の涙は其周圍にたぎる程にならうと思ひます。殊に此の愛情が男子に向つて發現せられる時は虎の如き強い鬼武者でも優にやさしくなり勝ちのものであります。猛き象も女の髪一本にて曳かれるといふ話もあります。西洋にても女子は男子を和ぐる唯一のものであるといひます。古今東西人情に變りはないてせう。之に就いて私が少年に教示した一話があります。私の曾つて教へた一中

(ロ)實現せしめよ

學生。元來伶俐な性質でありますが或時私を訪ねて語次家庭和合の事に及ぶと彼は慨然として 先生家の父は妹ばかり可愛がつて私を何時も叱ります。それで妹は實に亂暴で私を兄とも何とも思はないばかりか少しも言ふことを聞きません。私の家では和合などいふことはとても出来ないものでありますと申します。私は之れに對して男は強いのが當り前て又弱い所もある。女は弱いのが本當て又強い所もある。それで君の父も強い君に對しては強い所を用ひ弱い妹さんに對しては弱い所を表はしてゐるのである。然るに君はこれを知らないで君の妹の如く父の弱い所を現はして貰ひたいと思ふのであるやうだがそれは間違ひである。男は何處までも強く扱はれるがよし。女は何處までも弱く扱ふ様にせねばならぬ。君の妹が君に對する時に強くなつて來るのは君が男である爲である。しかし君の方から却つて君の弱い所て當つて見給へ。切度妹さんは君の親切に感謝するに相違ないから。といつて遣りましたら稍悟る所あつた様でしたが果して後日父も妹も大層工合よくなつて一家が愉快になつて



参りましたといふ手紙を寄越したことがあります。私は此一例を見ても男子は強さを本體とし女子は優しさを誇りとするものと斷言するのであります。従つて少女教育に就いては盡きざる愛情の發現を彼等に期したいと思ふのであります。然れども<sup>(ハ)</sup>愛情は偏向せしむるを不可と致します。女性一般といひたいが殊に少女は私愛に偏するのであります。即ち彼等の愛情は事柄よりも寧ろ人に存します。その愛國心の如きも熱烈ではあります。が頗る褊狭なのであります。目前に貧者があれば之を救ふことに躊躇しないが一般の救済すべきものに對しては左程に痛痒を感じないといふ風であります。換言すれば彼等の愛情は思想より出た公平なものではなくして感覺に基いた一時的のものであります。故に廣汎な慈愛は到底少女に望むべきものでありません。此れ教育によつて彼等を訓誨し愛情を強く且つ深くし同時に其の心を廣大ならしめる様導かねばならぬ所以であります。<sup>(ニ)</sup>次に少女の輕薄に陥るのを戒めなければなりません。少女の性は決して恒在のものでなく羽毛の如く飄翻極りないもので

(ハ) 偏向すべからず

(ニ) 輕薄なるべからず

ありますからその愛情も亦同時に變轉するものであります。従つて昨日愛せしもの今日冷淡となり今日無情に打過ぎしもの明日愛好する例は少くないと思ひます。この輕佻浮薄なる心は前項既に述べた如く大方少女の智識缺乏と思想の偏倚轉變より來るものであります。故に少女教育につきては常に男の如くの確てあれ。而して永續であれといひたいのであります。的確に永續。此れ實に知的修練のみ得られるものでなく大方は意的修練に依るものでありますから少女教育は一般原則として知情意の何れにも偏倚せず常に公平なる態度に由つてその圓滿なる發達を企圖すべしとは何人にも容認せられる事實になるのであります。少女の愛情は此れにて終りと致します。

社會的感情の第二は同情であります。此情は愛情と全く特異のものでなく或場合には同一に見做すべき性質のものでありますから殊更に別項として説述するまでもありませんが普通の見解には之を分けて置きますので茲にも別項として取扱する次第であります。愛情は前既に申した様

(二) 同情



## 同情の性質

に事物に牽引せられ膠着する感情であります。同情は他人の苦樂に思ひ及んで自分も共に苦樂を感じる情緒であります。故に同情を表する人は他人の不幸に對する時は兎も角も幸福に對する時は之を羨望嫉視する情を抑制しなければなりませんから頗る苦痛を感じますけれども同情を受ける方は之によつて苦痛は軽減せられ快樂は増大せられるものであります。つまり此情は社會生活の緩和劑の如きもので人生には極めて大切なものであります。併し少女には直接な感情ではありませんから詳細な説示は要りませんが家庭並に學校に於いて之を教養すべき場合が澤山ある上に此の時代より之が基礎を與へ置くことは必要であると信ずる爲めに次に要點だけを申述べましょう。扱て此の情の起りは極めて幼少よりと思はれます。生れて數ヶ月の嬰兒が母親の笑顔を見て笑ひますが此は無意識の中に他の感情を自分に移すので所謂模倣の本能とでもいふのでありませう。即ち此が同情の起りてあります。かく同情は最初本能的なのでありますから教養の如何によつては此の情を十分善良なる方向に

## 同情の發達

導き得るのであります。同情教養のことは後に論ずるとして差措きますが元來少年にせよ少女にせよ幼時に在つては其心理作用が只感覺的で外來の事物に由つて行動するのみであります。従つて其時代の同情は一も二もなく感覺的であります。それから進んで記憶時代に入り又想像時代に這入つてから漸く完全な同情を表現することになるのであります。然れども少女の記憶想像は極めて狭き範圍内に局限されますから之に由つて生ずる同情も亦其範圍は狭小なものであります。故に同情の喚起には獨り感覺や記憶や想像作用を十分に奮起させるのみならず能く實地に當りて同情すべき事物を観察せしめねばなりません。然れども此の觀察も若し感官に缺損あれば同情を惹起しないことがありますからつまり同情の喚起は智的要素の修練に在るといふが至當であります。目盲せるものは同情少くあります。耳聾せるものも同様であります。否此等の不具者は却て利己的感情頗る強く同情などは到底見出されない場合が多くあります。それで同情の喚起には各感官の整備せること、其十分なる發達と



は大切な要件となるのであります。感官の外亦同情の喚起を抑制するものがあります。それは忿怒嫉妬等の利己的感情であります。利己的感情は同情とは全く反対の感情でありますから茲に説明するまでもないと思ひます。次に抑制するものは少女の亂暴に過る活動であります。元氣熾んで何事をか爲さずに居られぬ少女時代は他人のことは構ひつけません。否他人を犠牲にしてまでも自己の自由なる活動を欲します。然るをそれを抑へて他の爲に同情を發露せよなど、誠めても殆んど用ひるものではありません。彼等の破壊的行動は實に之を證明して餘りあります。又之に反して元氣旺盛ならぬ少女は自分のことさへも容易ではありませんから他人のことなど考の中に入れる餘裕はありません。此れ亦同情の惹起發現を妨げる所以であります。一體同情は人生に必要なものとはいひながら斯くの如く之を妨げる事情も少くありませんから父毎教師はよく同情の性質を理會して無理にならぬやう又故意にならぬやう注意すべきであります。次に之が取扱を申しませう。(イ)同情は其表出を正しく

同情の取扱  
(イ)表出を正しくせよ

せねばなりません。同情は容貌言語態度に現はれます。他人に對して同情あるか否かは此の表徴によつて大方は推しられます。人間生活に共同の味を付し團結の力を與へるものは此の表徴であります。それ故に此の表徴が若し正しからぬ時は他をして徒らに誤解せしめ強いて疑惑の淵に沈ませる様になります。凡そ社會組織の一大要素は各人同様の感情を起すといふことにあります。従つてその表徴が同一であるべき必要は嗚々するまでもありません。然るにも拘はらず喜悅の時に悲しく現はれ悲哀の時に嬉しく見ゆる如きことあらば各人の感情は常に粗糲抵觸を來し社會組織は根本的に破壊せられます。假令根本的にかゝる差誤はなくとも程度に於いて若し相違ある時は輕薄諂諛等諸惡徳の源を作るに至ります。即ち表徴少きに失すれば輕薄となり重きに奔れば、諂諛となるのであります。同情は極めて必要なるだけ其注意も亦頗る周密にせねばなりません。(ロ)同情は之を導くを必要とします。經驗のないことに同情の起らないのは當然であります。それで父母教師は他人との交際に於いて吉凶相慶弔

(ロ)適當に指導せよ



し弱を扶け貧を恤み少女をして人は相倚り相助けて常に美はしき人情の生活をなすものなることを理會せしめ且つ味はしめなければなりません。少年に於ては稍もすると自分の元氣に任せて其の旺盛な活動から全く同情を缺くのみならず寧ろ破壊するを以て得たりとする場合ないでもありませんし少女に在つても亦同様のこと往々ありますが少年と異なり少女に對しては能く之を誘導して其温雅優美なる性情を同情によつて發露させる様に致したいと思ひます。かくて之を次第に擴張して我が皇室の仁慈を垂れ給ふこと。又我國體の優秀比類なきことに思ひ至らしめ以て忠君愛國の至情を涵養すべきものと考へるのであります。而して實に此の至情は教へて急に得るものでなく學んで直に體するものでもありません。否教ふるよりも學ぶよりも寧ろ永き習慣の力といふが至當でありませう。而して永き習慣の力なるものは之を少女に接近せる母親に依りて養はれるか少女教育に従事せられる教師の絶えざる努力に待たねばならぬのであります。果して然らばこの至情の養成は之を少年に期待するよりも少

(ハ)廣き範圍に及べ

(ニ)少女に同情せよ

女に望む方可いのであります。宜なり古來忠君愛國の士は其母の教訓と養育とに待つもの多きことを。私はこの點に於いて女子教育の決して男子教育に劣るべからざる所以否寧ろ學校教育に於いては却つて之を尊重すべき所以を確信するものであります。(ハ)同情は廣く自然物にも及ぶを要す。少女の同情は唯人のみにては足りません。動物にも植物にも及ばせたいのであります。元來自然物は人生に至大の利益を與へるもので此れなければ人生は保てない程のものであります。故に人はこの天與の寶物を暴殄せざるは勿論寧ろ之を愛育保護せねばならぬのであります。殊に犬猫牛馬の如き家畜類に在つては尙更であります。而してその之を愛育保護するのは全く同情に依る外はありません。古人も人の四恩を教へる中に天地自然の恩をば君父師の三者と同一にした程であります。(ニ)父母教師は少女に向つて先づ同情せねばなりません。少年と違ひ少女は頗る弱いものであります。少年は強い上に自ら強がるものでありますから之を叱咤するも罵倒するも彼等の氣を挫くことが少くあります。否かく



して彼等を激勵すべきものであります。併し少女は大に異なります。若し之を少年と同一に取扱へば彼等はその心を挫いて仕舞ひます。氣を喪つて仕舞ひます。所謂硬教育は此の場合適用出来ません。それよりは寧ろ優しく彼等に同情を表して學業にせよ品行にせよ果ては性質にせよ其の困難なるものに對しては勿論其の容易なものに對しても心からの同情を表して難きは之を助け易きは之を喜ぶの態度に出でねばなりません。學業の困難なる時の如き 此れ位のもの出来なうては困るといふよりは

此れ位のこと出来ぬ筈はないといふ方が遙に彼等を成功せしめるものであります。同一程度の困難でもその困難が二分せられる様に彼等は感じて中心の喜びを表します。従つて困難は軽減せられ樂んで課業に精出すに至るものであります。茲に至れば父母教師の同情は遂に彼等を導いて却て父母教師に同情せしめる様になります。父母教師の努力が此の程度になれば教育の理想は現實にせられたものといつて差支ないのであります。即ち父母教師と少女とは互に同情の交換をなしてゐるからであります。

(ホ)細則を設くべからず

(ハ)實現せしむべし

ます。同情の交換如何に美しい語てありませう。茲に於いて少女はその愛する父母教師の感情を害ふを以て非常の苦痛と感ずるに至り常に自ら戒飭して學業に精勵し言行を謹慎し頓て自治自教の境涯に入るのであります。(ホ)細かい規則を設けてはなりません。といふのは同情は自分の苦しい場合には起らぬからであります。かゝる場合には他に對して同情を表はすよりも先づ自分の苦痛を驅逐するのが當面の問題であります。或はかゝる場合に全く同情が働かないといふは過言かは知れませんが若し働いても極めて僅少と見ねばなりません。それ故に家庭及び學校に於いて如何に大切な規則にせよ。只大綱に止めて細目に涉らぬやうにせぬと少女は忽ち茲に一種の束縛を感じてその規則若くは之を執行する父母教師に對する同情が少しも働かない様になります。細かい規則を設けて親切を示すことは悪くない様であるが褒めたことではありません。之れ規則は只大綱に止めて置いて少女活動の餘地を存せしめるが可いといふ所以であります。(ハ)同情は實現せねばならぬ。同情は假令心に動いても之



を外部に發表し同時に之を實地に行はしめる様にせねば少女の經驗とはならぬのであります。尤も大人と違つて同情の實現は時に困難なる場合ないでもありませんが併し少女には少女だけの實現の方法がありますから能くそれを考へて彼等自身の力と資本とによつて出来るだけのことを爲さしめるが可いのであります。困難な不幸な場合を見れば直に之を救済せしめる如きその例であります。かゝる機會は家庭内に於いても又學校内に於いても頻々と起るものであります。友達が病氣に罹つたとか或は運動場で怪我をしたとか或は父母兄妹の不幸に際會したとか毎日何か適當な場合ないではありません。小さい事になれば學用品を忘れて来たとか復習が不足で進歩が鈍いとか誤つて遅刻したとか一級五十人の學級となれば必ず何事か起るものであります。その場合に少女をして適當な同情の仕事をして爲さしめる様にすれば彼等は將來同種の事の起りし場合に自ら發動して然るべき處置を取るものであります。加之人事上の出來事に對して相當な注意を拂ふ様になり頗る觀察力を發達せしめ得るので

(ト)喜にも同情せよ

あります。(ト)他人の喜にも同情する様にすることが可い。兎角同情は人の苦痛に對してのみ起り勝であります。喜びに對しては之を嫉妬こそすれ勇んで喜んで遣るといふ雅量の無いのが少女の常であります。人の喜びを我が喜として喜ぶは神でなければ出來ぬことであるとは能く人が申します。蓋し人は他の苦痛を見れば之に比して我が境遇の頗る優越なることを感じその苦痛を能く我が心中に描き得るのであります。然れども人の喜びを見れば我身の喜びの彼に如かざることを悔んで彼を嫉視するのであります。併し此は甚だ量見の狭いこととあります。己れに如かざるものは之を憐むけれども己に優るものは之を嫉妬するといふは同情的發作ではありません。若し斯くの如くんば人の苦痛は之を憐むではなくして嘲弄するのであります。否己れの境遇に慢するのであります。故に眞の同情は他人の喜に對しても快く喜ぶといふまでにならなければなりません。少女の同情も此の點に至らしめたいと思ひます。(チ)同情は之を利用せねばならぬ。何となれば同情は道德教育の基礎となるからであります。

(チ)利用すべし



す。人生は孤獨のものでなるといへば一言にして同情の必要は盡されませんが今之を説示せん。第一同情は家庭和合の源であります。父母兄妹の間に在つて必要缺くべからざるものは相互の好意であります。互に好かれ。此が一家の幸福を生むのであります。父は子の爲に好かれと祈り子は父の爲に好かれと願ふ。此に犠牲的精神が發揮せられて一家の齊平は保たれ親子兄弟其所を得るのであります。一家の人々その所を得て一家和合せぬといふことはありません。第二同情は國家平安の基であります。既に一家の和合を得ました。之を推して隣保郷黨に及べば隣保郷黨亦和合致します。忠君愛國の至情も此に生じ慷慨義憤の情も此に起ります。君は我が爲に勞せさせ給ふ。我れ君の爲に報むざるべからず。之れ實に國家平安の基であります。第三同情は社會進歩の泉であります。社會生活の愉快は全く同情の賜物であります。つまり同情は社會の人々をして相寄り相助けて其苦樂を享受せしめるからであります。苦を共にすれば苦は分配せられて次第に軽減されます。樂を共にすれば樂は集合

して其の量を遞加致します。即ち同情に由つて苦は減ぜられ樂は増加せられるとすれば社會生活は主觀的に快樂を増大すべきが自然であるといふことになります。已に快樂が増大すれば是れ社會進歩の一現象と見ねばなりません。即ち同情は社會進歩の泉であるといふ所以であります。さて同情は實に此くの如き各種道德の基本をなすものとすれば父母教師は之に由つて少女の道德性を陶冶鍛鍊すべく利用しなければなりません。獨り道德に於いてのみならず知識收得の上に於ても同情を利用すると否とは其成績に至大の關係を有するものであります。父母教師と少女とが互に同情する結果は教育全體の仕事を成功せしめるに於いて或る理想に到達したものであるとは前に申した所であります。同情心の利用は極めて大切であることを再言して本項の説述を了ります。

私は以上すでに主我的感情社會的感情的陳述を了しましたから最早他にいふ程のこともありませんが唯茲に高等感情即ち情操について數言を費したいと思ひます。情操とは主我的感情の如く自己の利害のみを主と



## (一) 智的情操の性質

し社會的感情の如く自他の得失を考へるのでなく全く自他利害等の關係を離れて其物自身に於ける價值を感じる最も高尚な感情であります。通例之を知的情操美的情操及び道德的情操の三種に區別して見るのであります。今知的情操から簡単に申述べませう。此の情操は知的活動及び知識の收得に伴へるすべての感情を總稱するもので意志と關係して行爲の刺戟となる場合には好奇心又は知的欲望と稱するのであります。而して此の情操は無知の事物に對しては苦痛の感に先立たれるけれどもその事物の原因由來を審にし茲に明白なる觀念を有するに至れば快樂の情となるものであります。要するに適度の知的活動には一種の快感が之に隨伴するもので例へば事物の觀察に於いては感官活動の快樂之に伴ひ更に比較辨別して類似差異を發見したる時には又一種いふべからざる愉快を感じる如き皆是れてあります。而も此等の快感は知識を收得したから大に利益になつたなどいふことの爲に生ずるものではなくて只知識其のもの爲に生ずる性質のものであります。即利害得喪を離れた一種高尚な感

智的情操の取扱  
(イ) 努力の興味たらしめよ

情であります。この感情は少年と少女と何れが強きかは容易に判斷すること出来ませんが只此情の取扱については少年と少女とは稍趣を異に致しますから次にその取扱を述べませう。(イ) 智的情操は努力の興味たらしめねばならぬ。此情操の始めは未知といふ苦痛の感なることは前に述べた通りであります。此の苦痛は少女自身の努力によつて解除せしめる様にしたいと思ひます。他より力を加へて之に應援することは彼等をして與へられた快樂に満足せしめるだけで眞の快樂を感じしめないからであります。人は老幼を問はず自分の努力に由つて得た結果を樂しむ様にならねば不可ません。人に導かれ若くは教へられ得た成果は眞實の我物とならないのであります。然れども只茲に注意すべきは努力の大小と成績の良否とが必ずしも伴はないこととあります。即ち努力の大なるに比して必ずしも成績が大なりと限らず或は全く反對の結果を見ることも尠くないのであります。少年であればかゝる時甚しく失望することもなく寧ろ直様恢復しようとして一層の努力をなすものであります。少女は之に



反して少しの努力に對する割合に大なる僥倖の結果をも非常なる喜びを以て迎へると同時に全く之と反對して努力に對する割合に結果が少いか或は全く缺如でもするとひどく落膽して茲に苦痛の感が起り甚しきは嫉妬忿怒する様な場合が決して少なくないのであります。蓋し女性は男性の自己を信頼すると異なり他に倚頼するの念熾なる爲であらうと思ひますが此等は頗る注意して戒しむべきもので天事人事ともに最善を盡して僞らざる其處に人生の價値があり尊嚴のあることを牢記せしめたいと望むのであります。(ロ)父母教師は其の人格を正せ。少女に眞實の考を抱かしめるには先づ父母教師に於て眞理を愛好する態度を持たねばなりません。少女の性質として此の時期に於ては何事にも徹底を欲するものであります。此處に不可思議な事あれば之を追求せんと欲し彼所に怪異な物あれば之を闡明せんと努めるのであります。此れが少女時代の初期の如く只徒なる好奇心よりするのではなくして専ら未知の事物を既知の觀念に融合せしめたいと思ふ極めて切實なる智識慾からであります。それ故

(ロ)人格を正しうせよ

(ハ)智識の爲に求めしめよ

に父母教師は彼等に對して實に宜い加減な不眞面目な説明を與へる様なことはなく眞實に同情する如き態度に出で己れも共に彼等の對手となりて眞理を求める様な工合に致さなければなりません。面倒に堪へない父母教師に能くある例でありますが少女の窮理的質問に對して交ぜつかへしな一時の糊塗的な然らざれば極めて滑稽な答を與へて當座の逃げを張るやうなことは斷じて避けねばなりません。之れ彼等の眞理愛好の念を消却せしめるのみでなく父母教師の信用地に墜ちて其他のことに及ぼす影響極めて大なるからであります。(ハ)智識の爲に知識を求めしめよ。賞與を得たいとか若くは名譽を欲しいとかの爲の知識追求は避けたいと思ひます。かゝる外物即ち附加物に由つて智識欲を擴大ならしめるは眞の知識探求者とは申されません。何となれば若し彼等に賞與なく將名譽の伴ふなくんば彼等は智識探求者でなくして寧ろ知識放擲者であるからであります。併しながら少女は何所までも少女であります。少年と異なり自己をのみ信頼するものでありません。かの全然賞與なく名譽の伴ふな



きは大人と雖も難しとする所でありますから況して少女には尙更のことと思ひます。故に時により場合により智識欲擴大の一方便として此等と與へることは全く無意義とは限りませんが究竟は知識の爲に智識を求めしめる所以なることを常住に考へて目的と方便との混淆轉換なきやうにと期せねばなりません。(二)疲勞なきを要します。少年にせよ少女にせよ其心理は尙簡單なものであります。故に彼等の智識欲も亦極めて直截簡明であります。されば彼等の智識欲に對する父母教師の説明も只之に應じるだけのことで十分であります。然るに若し甚しく獻立膳立のみをして説明が容易に急所を衝かず常に圓の周圍を廻るが如き有様なのは彼等の心理に恰當したものでないであります。殊に少女は少年に比して疲勞の度も強いものでありますから未だ目的に達せないうて途中で疲勞し切つて仕舞ふ様になります。此を以てあまりに詳細なる説明は勞して益なればかりか少女自身の想像思索の力を減退せしめ従つてその努力を少くしますから此に依つて得たる快樂の情は甚しく少量になるのであります。

(二)疲勞なきを要す

(二)美的情操  
性的情操の

故に少女の質問に對する説明若くは、父母教師から附與する教授材料等は少女の嗜好と心力とに適應せしめて彼等自身に快樂を作成せしめる底の工夫をなさしめねばなりません。時に或は父母教師の方より適當な發問をなし彼等少女をして自ら其無智なるに苦痛を感じしめ置き然る後徐々に解明を與へるか或は彼等をして努力して答へしめる如きも良い方法と思ひます。何れも彼等の疲勞を買ふに至らしめぬ程度に於いてなさしめたいのであります。智的情操の取扱については尙幾多の方法もありませんが長くなりますからこれにて切り上げと致しませう。

高等感情の第二として美的情操を説述致します。此の情操は自然物及び人工物の美醜に對して生ずる快不快の情であります。高尚とか整齊とか莊嚴とかいふ如きは此情操の快なる方面で野卑とか醜惡とか不調和とかいふ如きは其の不快なる方面であります。而して此の情操を生成する要素に三種の區別あるを見ます。即ち其一は形質に屬するもので色彩音聲及甘味美香等の如き感覺的要素であります。其二は形式に屬するも



ので調和統一變化等の知覺的要素に關するものであります。其三は意向に屬して歴史上の舊蹟名所に對する時や高大なる山川河海に接する時に起る觀念的要素であります。かく三種の要素はあるものゝ何れも美醜其物の爲に生ずる感情で自己に對する利害得喪によりて先行せられるものでないのであります。此の情は少年に比して少女は殊に著しいので少女教育の最終目的の一つに數へられる程のものでありますから教育者は特にその養成と取扱とに注意しなければならぬのであります。次に其二三を話しませう。先づ(イ)周圍を整美にせねばならぬ。即ち少女の日常接觸する事物をして美ならしめるは勿論周圍の設備にも意を用ひ各教科の教授も能く整頓し實物繪畫等を示すに際しても其選擇取舍に注意し教師の言語の如きも努めて卑言を避け亦其の態度も優雅溫健ならしめんことに留意したいのであります。かくする時は少年と異なり少女は忽ち其を模倣して不知不識の間に美感を養成し得るのであります。唱歌圖書手工の如きは最も此の情操の養成に特效あるものなれば此等の教科教授の際は

美的情操の  
取扱  
(イ)周圍を整  
美にせよ

(ロ)利害を度  
外にせよ

一層入念になさねばなりません。若し又少女が其心性の發達あまりに幼稚にして此の情操に缺ける所ありとせば父母教師は彼等の周圍環象につきて特殊の注意を拂ひ若くは教授する事物につきて其の何れの點が美なるかを説示して少女をして此の情操の活動を促進せしめる様な手配すべきものと思ひます。(ロ)利害の感情は度外に置くべきであります。何事ても利害得喪より打算せられる今日利害の念より解脱せよとは實際頗る困難なことであります。然れども美的情操の興奮せる時には利害の觀念の生じるものでないことは既に申しました。一幅の畫を見て美と感じた時更に進んで己れも亦畫中の人となつた時に其所に利害の念がありませうか。己れさへ既に忘れたのであります。況んや利害の念の如きをやであります。人は日常生活の爲に營々たる側らには時々己れを忘れて天地自然と融合一體となる時なければなりません。此れが即ち人間の高尚なる所であります。併し少女にはまだ此高尚なる域までに美的情操の發達は望まれません。従つて己れを忘れて天地自然若くは人爲の美と融合する



(ハ)共通なる  
を要す

ことは覺束ないのであります。然れども人間窮極の目的は此の境に達するに在りとすれば少女時代に其の基礎を與へることは最必要であります。尙此時代に其の基礎を與へなければ處女時代に入つては既に後れて悔なきを得ぬのであります。(ハ)美的情操は共通なるを要する。一體美若くは醜と稱するものは絶對的のものでなく相對的のものであります。換言すれば人によりて美の程度は異なるものであります。故に甲の見る所美にして乙の感ずる所或は醜かも知れません。或は甲の感ずる所醜で乙の見る所美かも分りません。即ち美醜には一定の標準が無いからであります。けれども此の相違は實は程度の問題であつて質の問題でないのであります。従つて美醜は人によつて全然反對することが先づ無いと言ひ得べきかと考へます。果して然らば美的情操は人によつて多少の異なりあること止むを得ぬのであります。併し此情の教育法は社交的であるべく同時に多人數に共通的である様注意しなければならぬと思ひます。社會の共同的動作に参加し衆と共に楽しむ底の道德的情操の助ともなるであ

(ニ)他情操と  
關係せよ

りませう。(ニ)智的情操道德的情操との關係を忘れぬこと。美的情操が立派に養成せられると之によりて感覺的肉體的の行動は大方制止し得られますから少女としての行動は頗る上品に現はれるものであります。人の品位は此情操の發達と否とに關すること大なるは今更めて嘸々する必要もないと思ひます。殊に智的情操との關係は頗る大なるもので少女の美的情操は其感覺的要素に在つては知識收得の一大聲援であり知覺的要素觀念的要素に在つては少女心力の活動に多大の助をなすものであります。即ち此の情操あるが爲に少女自身の努力も輕減せられ父母教師の配慮も其功を的確になし得るのであります。但し此に注意すべきは少女の美的情操は稍もすれば感覺的要素のみ捕へられて只外物の美醜のみに情を動かし高尚なる心力の活動については此情を活かし得ぬ場合少くないこととあります。換言すれば自ら發奮興起して其努力を樂むことのみならず多からぬこととあります。これは少女なればこそ止むを得ぬと許し得られるやうのものであります。私は少女なればこそ殊に此習慣を早く附け



置かねばならぬかと考へるのであります。幸に我邦人は他國人に比して此の情操の發達著しいこと次の事實にて證明が出來ますから稍意を強うするに足りませんがさりとて決して自然に放任して可いとすべきでないのてあります。

英人の自然觀は到底我が國に於けるが如く熱情的にあらず。詩歌は必ず風露鳥蟲を材料として咏出すべしとせらるゝにあらず。否多數の人は殆んど自然に對して何等の趣味を認めざる如し。かつて彼地にありし頃雪見の人を誘ひて笑を招きしことあり。月は哀れ深きものと説いて驚かれたる折もあり。或時は知人に何故庭に石を据えざるやと問うて据えてくるゝ人があるとも直に庭外に運び捨てる覺悟なりとの返答を承はつたることあり。或時は路傍の松樹をさして同行者に時價若干と尋ねたるに其男五磅位と答へたりし故日本にては王侯の邸宅を飾るに足るを安きものかなと感じたり。あとにて聞けば五磅とは庭樹としての價ならず樹木としての價なりし。蘇國に招待を受けて逗留せるは

英人と美的  
情操

宏壯なる屋敷なり。或日主人と果樹園を散歩して樹間の趣味悉く苔蒸せるを見てよき具合に時代がつきて結構なりと賞めたるに主人は近きうちに園丁に申しつけて此の苔を悉くかき拂ふつもりなりと答へたるを記憶す。これ等は素より文學趣味なき人についての例なれば之を以て一般を評するは過てりと雖もかゝる種類の人が比較的我國より多きは争ふべからざる事實なるべし。(夏目漱石氏文學論)

人或は硬教育なるものを標榜して少年少女を無趣味乾燥なる空氣の中に困苦に堪へ辛酸を意とせざる底の教育をすべきものであるなど唱道するの只少年少女心理の一面のみを見てその全面に周到なる注意をなさざる僻言といふべきものであると私は信ずるのであります。美的情操については此を以て終りと致します。

最後に道德的情操について一言いたしましたせう。此情操は自分若くは他人の行爲の正不正に對して生ずるもので自分の利害には關係なく善をなした時に快を感じ惡をなした時に不快を感じるのであります。之と同時に

(三) 道德的情  
操



道徳的情操  
の性質

に他人の善を見た時に喜び悪を聞いて楽しまぬ如きも亦此の情操であります。此の情操の起りは早く幼兒時代に之を見ること出来ますが最初は消極的で只罰を恐れて悪をつゝしみ賞讃せられるから善をなすといふに過ぎぬのであります。されば此の時代に於ける道徳的情操は全く利己的のものといはねばなりません。即ち善は快なれども悪は不快なれば之を避けるといふに過ぎないからであります。然れども漸次進んで同情の發達するに及べば父母兄弟を喜ばしめんが爲に自ら惡を避け善に就くやうになるのであります。かくて更に長じて他人と交はるに至つて他人の行爲が直に自己の利害に關係あることを悟り之と共に自己の行爲も亦他人に同一の影響を及ぼすことを知つて善惡の觀念益明瞭となり遂に自分に何等の關係もない人の善を賞し惡を憎む様になるのであります。加之更に進んでは自分の行爲を反省して惡をなした時は自ら咎め善をなした時はいよゝゝ勵むに至るものであります。かくて最後は眞善美其物の爲めに之を好愛して其間に一點の卑吝の情の起らない様になるが普通であります。

良心の説明

ます。然れども此れ大人にして始めて期し得べきこととて幼女少女に在つては頗る難いといはねばなりません。尤も少女に在つては稍期し得られないことないでもありませんがよし期し得ても極めて初歩のものであります。而も少女の此の情操は寧ろ消極的に賞罰に由つて生ずるか或は進んで相對的に自他の善惡に對して快不快の情を起す位のところ未だ絶對的に善其物を樂しむといふ階段には至り兼ねるのであります。少女期精神發達の過程から見ますれば如何にも當然なこととて若し父母教師が此れ以上の發達を計劃したならばわけても早く處女時代に入らんとする彼等を特に誘導する所以のもので頗る拙策たるを免れないのであります。次に此情操の養成と取扱ひ方を申しませう。併しその以前に一寸良心の説明を致します。即ち良心は人が善惡を區別して善に就き或は惡を避けんとするもので其命令は「かくすべし」「かくすべからず」「かくせざるべからず」と感ぜしむるもの所謂義務の感情であります。而して此の義務を果すと否とは精神に快不快の感情を生ぜしめ若し不快の時は後悔羞耻など



の念と爲りて現はれるのであります。良心の説明は此にて多少領會し難い所もありますから私は更に進んで心理的に解釋を試みませう。扱て良心も素より心理作用の一つであります。心理作用には知情意の三方面あること勿論でありますから良心にも亦此三方面あることを認容せねばなりません。即ち知的方面情的方面意的方面であります。されば良心を研究するには自然の順序として此三方面よりせねばならぬことも明であります。而して良心の知的方面の研究とは主として道德的判断の性質作用發達確否等に關する問題の研究で義務觀念の如きは之に屬するものであります。又情的方面研究とは主として道德的方面の研究で義務の感情悔恨羞耻の情の如き之に屬するものであります。更に意的方面の研究とは智識と意志との關係意志の自由必然に關する研究欲望動機品性等の研究を云ふのであります。かくしてこの三方面の研究を進めれば道德的理想即ち行爲の善惡正邪を判断する標準は如何なるものであるかを解決することが出來従つて茲に道德的感情の満足を買ひ得るやうになるのであり

ます。然れどもこれ丈ではまだ／＼足りません。更に進んで其の判断を行爲に現はしかく徳者たるの位地に進まなければならぬのであります。此に於いて良心の満足なるものは智的方面即ち善惡の識別。情的方面即ち善惡の好惡。意的方面即ち善惡の行爲の三點に於いて缺ける所ない様になつた状態をいふのであります。かく良心を説明しますと道德的情操と何れの點に於いて相接觸するかといふ問題に這入つてまゐりますが道德的情操といふのはこの良心の情的方面換言すれば善惡に對する好惡を指すものであります。然れども良心なるものは既に説述したやうに知的でもあり又意的でもある以上は此三者相待つて其一をも缺かぬやうにしなければならぬことは明であります。従つて道德的情操の養成にも知的判断の養成を始めとし意的行爲の實現をも期待しなければならぬと思ひます。そこで此情操の養成取扱については先づ (イ) 道德的觀念の附與より始むべきであります。現行の小學校令に於いては修身教授を以て之に充てるのであります。が當り修身科ばかりでなく他の教科に於ても同様に

道德情操の  
養成(イ) 道德觀念  
の附與



見ねばならぬのであります。故に苟も道徳的觀念の附與をなし得る場合ありとすれば教師は加何なる場合でも努めて其機會を利用し修身科と同様の心掛を以て之に臨まねばなりません。殊にかゝる機會は歴史科若くは國語科及び地理科等に於いて最も多く捕へ得ると考へるのであります。又遊戯運動の場合に於いても同様であります。彼の偶發事項の如きは更に有力な觀念の附與になるのであります。教師は常に此の點に着眼して各種の場合をして修身科の任務を分擔せしめる様に致したいと存じます。家庭に於いても亦父母兄弟は能く學校教練の旨趣と一致して道徳的觀念の附與に勉むべきであります。即ち學校と家庭とは互ひに甚深の注意を加へて少女の身邊を圍繞しなければならぬと思ひます。殊に少女時代は學校及び家庭が多くの場合に於いて彼等の周圍環象でありますが年齒漸く長じますと社會といふ一大勢力が之に加はりますから若し少女時代に於いて一般道徳の標準を教へ置かないと社會上の事實は少女の觀念界と一致せず之が爲にその思想が大に惑亂せられる傾向を生じます。此くて

## (ロ) 道徳的判斷の練習

は教育の効果が少しも擧らないのみか却て破滅して仕舞ふのであります。此に於いて學校教育が只學校内の事にのみ注目して教育するの非なることは勿論家庭も亦學校を離れて勝手な教訓を施さぬやう注意しなければならぬ理由は甚明白であらうと思ひます。次に(ロ)道徳的判斷を練習しなければならぬ。道徳的觀念の附與は畢竟道徳的判斷の正確なるを期する所以であります。而して此の判斷は觀念上のみならず進んで行爲にも及ぼさねばならぬのであります。而もそれは自分の行爲及動機はいふまでもなく他人の上をも觀察考慮するが可いのであります。家庭に於いては勿論學校に於いては友人の行爲其他について此の判斷を修練する機會が甚多いものでありますから之に對する慎重の考慮を加へた上に篤と判斷させたいのであります。而して若しも其の判斷が他人の動機及志向であつたとすれば少女をして此より生ずる結果を豫測させるも可いのであります。修身科歴史科の教授に於いては殊に此の機會を捕へ易いと思ひます。それで事苟も道徳判斷を修練せしめる場合であつたならば父母教師



は決してその機会を逸してはならないと思ひます。次に(ハ)善悪に對する好悪の情を養ふことは最大切であります。大切ではあるが最も困難なものであります。何となれば此情の養成は教授でなく訓示でなく殆んど其全部は父母教師の人格に由るからであります。若し父母教師が此情に強かつたならば其傾向は自然其人格となつて外部に現はれますから少女は知らず識らず其の感化を受けて此の情を養ひ得るのであります。謹直な父母の前には謹直な少女が出來。粗漫な教師の前には粗漫な子弟が出來るのは此の理であります。父母が慷慨家なれば子女も慷慨家となり教師が樂天家なれば兒童も自ら樂天家になるのであります。即ち父母教師の人格に同化するといふことは皆此情の直觀といふべきであります。そして父母教師殊に教師は人格の修養を以て最大急務とするのであります。多くの教育者中能く喋々するものはあります。能く喋々するものはあります。威張る人誇る人決して少くはありません。然れども自分の人格を清淨無垢な少年少女に移して中心に忸怩たらざる人幾人ありませうか。

私は之を數へて見たいのであります。併しかういへばとて我々は決して恐るゝに及びません。我々の足らぬ所は我々自身の修養に依つて之を補ひ得たいといふ覺悟さへあれば何時かは我々の期待する境涯に到達し得るからであります。假令到達し得ぬにせよ此覺悟は我々をして各種の方面に發展向上せしめるからであります。そして此の新進の銳氣は自然少年少女に感じて彼等をして常に發奮興起せしむべく餘儀なくするからあります。かくて彼等をして我々の周囲を取巻かしめ我々を離れるに忍びざる情を起さしめて茲に我々は彼等の精神を捕虜とし之を自由に訓練し得るに至るのであります。我々の境遇は何れの方面から見ても同情に値すべきもののみではあるが唯此一點ばかりは天下の何人も蓋し羨望に堪へない所であらうと思はれます。而して我々も亦此の一點ばかりは何人にも犯され難い所であると安心して自ら慰めなければならぬと思ひます。教師の職の尊い所は此所に在るし教師の人格の大なる修養を加へなければならぬ譯も此所に在ります。所論稍岐路に入りましたが善悪に對



(一) 道德的法則を代表せよ

する好悪の情は父母教師の人格に依頼すといふことを再言して本項を終ります。(二) 父母教師は道德的法則を代表する覺悟がなくてはならぬ。少年少女には説いて聞かすも一法でありますが行うて模せしめるより効果が少いのであります。故に道德的法則なども説いて知らしめることを先にするよりは行つて悟らしめる法が何程可いか知れませんが。父母教師の人格が最良の道德的情操養成法であると極言したのも畢竟此の理由からであります。父母教師の諾否は善惡正邪の分れ路であることに十分注意せしめて其の一顰一笑も決して徒爾ならぬものなることを感ぜしめねばなりません。殊に少女は少年に比して人の氣を引き心を試めさうとする考が熾てありますから此の時父母教師が若し一步を誤ると後に修正することの出来ない破目に陥るのであります。少女の心理は比較的單純でありますから父母教師が前後矛盾したことを事情と時間とを異にするからなどいふ理由の下に説明し終らせようとしても仲々肯かふものでなく一方が善なれば他方が惡一方が真なれば他方は偽といふ様に速断して其中

(ホ) 賞罰の公平

間を中々認めないのであります。一か八かといふことありますが丁度その通りで善でもない惡でもない中庸のものであるとか真でもなく偽でもなく中間的のものが存在するといふことが容易に會得されないのであります。故に父母教師は常に訓練及躰方については一定の方針と見解とを持し身自らもそれを心に體得し行に實現して彼等に一點の疑惑ないやう注意しなければなりません。最後に(ホ) 父母教師は賞罰の公平を心掛けたいのであります。之は一般教育學に能く説いてありますから茲には大要に止めますが先づ賞に就いていふならば賞は多用すべからず。賞は自分の努力によれる行爲に行ふべし。賞は其人の特性を考ふべしといふが原則であります。罰については父母教師は常に果して罰の必要ありや否や。罰の種類如何。罰によりて目的を達し得るや否やを豫め考へ次に之を課するに及んでは罰は豫防的ならしめること。罰は威嚇的ならぬこと。罰は健康を害せぬこと。罰は忿怒侮蔑等の感情を交へぬこと等を慎重に商量して之を行ふが可いのであります。之を要するに賞は頗る心理的の



ものであります。が罰は極めて非心理的のものであります。ですから賞罰を行使する父母教師は餘程の入念を要するのであります。神經質の父母教師は稍もすると賞罰を濫用して却つて少女の不信を買ふに過ぎない如き拙策を演ずることありますから注意せねばならぬと思ひます。

以上私は數項に涉つて道徳的情操の養成と取扱とを申述べましたが此等についての詳細は數年前公にした拙著教育教授の缺陷の訓練論に説述して置きましたから就いて一覽せられたならば本章の不備を補ひ得ること出来るかと信じます。

高等感情はかく知的情操美的情操道徳的情操の三者を説述すれば其の大意は盡されたのであります。が只尙一つ申述べたいのは少女の宗教的感情のこととあります。併し其全體の説述はあまり必要もないと思ひます。から茲には其の一部たる敬虔心の養成について前記教育教授の缺欠中より抜載して参考に供するだけと致しませう。

日本人は素と謙遜の念に富み敬虔の志厚い國民であつたが最近に至り

## (四) 宗教的感情

## 敬虔心の缺

ては稍その傾向が變じて剛慢不遜となり謙抑恭虔の念漸次薄らぐに至つた様に思ふ。強ち日清戦争や日露戦争の勝利から生じた弊とも限るまいが要するに國民一般が通じて剛慢無禮の態度を敢てすること何てもないと思ふ様になつたのである。従つて從來我國民性とまで思ひ來つた敬虔の風が一時に地を拂つた様に思ふ。現今世界の進歩は舊例故實に拘泥するを許さないで進歩の爲には何物を破壊するをも辭せぬといふ風潮の結果かも知れぬが此の風潮に伴ふ敬虔心の衰頹は甚嘆かほしい次第である。故に教育者は意を茲に用ひて三千年來養ひ來つた國民性ともいはれる美風は之を十分に保全するやう努力するが可いと思ふ。今日の普通教育に於いては殊に敬虔の念を養ふ様な場合が甚少いから更に一段の注意を要するのである。

敬虔心ないものが剛慢になるは勿論のこと輕躁となり粗雑となり亂暴となるものである。従つて誠實にもなれなければ沈着にもなれぬ。綿密にもなれなければ平靜にもなれぬ。世人が進歩々々と絶叫するにも



拘はらず其進歩は構成的でなく却て破壊的になるのは嘆ずべきである。進歩したと思ふうちに又破壊しなければならなくなり構成したと安んずる中に崩壊が生じて来る様になる。故に進歩々々というても堅固な真面目な進歩でなく砂の上に立てた建築の様なものである。これでは誠に不安に堪へないではないか。

敬虔心の中最貴重なものは神に對するものと祖先に對するものとである。古の人は學問は無くとも此の敬虔心はあつた。此の敬虔心がやがて彼等の信仰を作つて彼等をして事業に對し職務に對して最後の勇者たらしめるのである。今日の人は教育はあるといつても神を敬ふことを知らねば祖先を祭ることをも解せぬ。故にその事業に當り本務を行ふを見るに知識判断は的確であつても一種の信仰が缺けて居るから最後まで之を繼續し遂行するの勇氣は出ぬ。加之其の成績は表面立派でも敬服に値する様な仕事は出来ぬ。百年の基礎を作る様な大事業は出来ぬ。小學教育に於いては如何にかして教育者の合同協力により此の

敬虔心の養成に力を盡さなければならぬと思ふ。

然れども敬虔心の養成は現今の設備に於ける小學校にては容易に之を養成し得ぬと諦めねばなりません。寧ろこは家庭の仕事であるまいかと考へられます。何となれば家庭に祖先のなきものはなく又神佛を祀らぬ家がないと思ふからであります。既に家庭の仕事としますれば此の情の養成は當然母の任ずる所でありまして従つて少年よりは少女に此の情の養成を期待すべき必要ありと信ずるのであります。

以上私は少女の感情的方面の陶冶について繁雜と重複とを顧みず長々と所思を陳述いたしました。此は始めにも申述べた通り少女の感情はその取扱に於いて最大の注意を要しますからこのこととあります。これで少女期の心理及其の取扱の全般を終ることに致します。



## 第六篇 聯絡教育

## 第一章 學校教育との聯絡

茲に聯絡教育といふのは家庭教育と學校教育及社會教育との聯絡をいふのであります。換言すれば家庭教育と學校教育との聯絡及び家庭教育と社會教育との聯絡をいふのであります。先づ家庭教育と學校教育との聯絡より申しませう。一體家庭教育と學校教育とは唇齒輔車の關係をなすべきもので學校よりいへば如何に家庭と聯絡すべきか。家庭よりいへば如何に學校と聯絡すべきかを常に念頭に置いて夫々教育を施すべきものと考へるのであります。然れども學校教育には特殊の目的があつて其施設の總べてが家庭に聯絡せしめ得ると限りません。よし聯絡し得べしとするも家庭には銘々の家風あり習慣あり又職業の別等あつて決して單一てありませんから學校が家庭に聯絡をつけるといふことは其旨趣極め

聯絡教育の  
意義

て善良なれども只其効果を十分に收め得ないのが常であります。併し家庭の方では學校教育の一般状態を知ればそれに應じて子女を適當に指導し得ますから却つて効果を見得るのであります。故に是より申述べることは主として家庭の方面より如何に學校教育に聯絡すべきかといふことに専らになりたいと思ひます。

それにつけては先づ學校とは如何なるものか。又その教育の旨趣並に長所短所は如何等を一通り知らねばならぬと思ひますからそれを陳述致しませう。扱て學校素より茲では中學以上をいふに非ずとは何かといへば子女が滿六歳より十二歳に至るまでの教育所であつて法律に由つて規定せられた課程を履修せしめる所であります。故に我國の少女にして滿六歳に達すれば心身に特別の缺陷あるとか或は父母保護者に容易ならぬ事情が存在するでなければ就學をば免除せられぬのであります。普通の子女にして就學せしめない場合ありとすれば國家は法律を以て之を罰することになつて居ります。故に此の年齢の子女は殊に之を學齡兒童と稱

小學校の性  
質



し國家自身に於いて若くは某團體即市町村等をして學齡兒童の就學し得る丈の校舍を設立せしめ之を收容して教育を施すのであります。校舍が狭いから入學を拒絶するとか來年まで入學を延期して欲しいとかいふことは絶對に出來ないことになつて居ります。かくの如く國家と家庭とは其子女教育に於いて互ひに主従の關係になつて其權利と義務とを行使し居るのであります。この理からして學齡期の兒童を學校に入れるのは家庭の義務と同時に權利でありますし學校を設備して學齡兒童を收容するのは國家の權利と同時に義務なのであります。それで國家と家庭とは相互ひに其義務と權利の執行に努力しなければならぬのであります。かくて收容したる兒童は學校で之を年齢別によつて六つの年級に區別して教育することになつて居ります。若し其人數があまりに多くして教育上の効果を收め難いと信ずる時には其の年級を幾つかの組に分けて教育する場合もあります。然れども一組の兒童の數は大抵四五十人が普通で其以上になれば一人の教師にて全體の教育を擔當することは頗る困難と思ふ

のであります。私の經驗では一組の人數が三十人位ならば最佳いかと考へますが我國の實際は三十人一組などいふ所は殆んどなく大方四五十人中には六七十人に及ぶ所もある様に存じます。而して一組の人數がかくも多いに拘はらず之を擔任するものは大抵一人の教師でありますから如何に努力しても兒童銘々に適當した十分の注意を拂ふことが出來ず従つて第二篇第一章に述べた様な學校教育の缺點を現はし來るかと思つてあります。

次に學校には規則で定められた動かすことの出來ない教科がありました。六年間に悉くそれを修了しなければならぬのであります。而も其教科の課程も一年一年にちやんと區分せられて勿論それを犯すことは許されぬのであります。そして教材の種類も國語とか算術とか地理とか歴史とか大方限定せられてその以外に出来ること出來ません。即ち國家が各方面の見地から考へて國民の義務教育には此れだけは必要なりと規定したのでありますから學校が得手勝手に之を變更することもならず又家庭の要



求などによつて急に改廢するといふ譯にも至りかねるのであります。且各教科に對して大抵國定の教科書がありまして日本の學校は北は樺太から南は臺灣に至るまで之を用ひるのであります。が土地に合はないから止めるとか若くは必要ないから教へないなどいふ勝手なことは勿論出來ないのであります。即ち國家が一方には能く我が學齡兒童身心の發達を考へ他方には國家の目的より打算して精密な考慮研究の上に成つたものでありますから學校も家庭もその通りに遵奉すべきであります。

かくの如く學校は其の性質に於いて設備に於いて兒童數に於いて組別に於いて課程に於いて教科書に於いて將又教師に於いて精細な研究を遂げて國家の目的を遂行する爲に出來て居るものでありますから家庭が能く之を理會しますことは即ち聯絡の第一歩なのであります。この聯絡の大綱を理會して家庭は其子女をして學校教育を十分に受けしめる手配をすることは即ち第二步の聯絡と思ふのであります。換言すれば其の子女は學校の兒童であることを心に牢記し家庭にある間も尙學校の兒童たらしめることとあります。茲に於いて私は學校教育の長所短所は何かといふに論及しなればなりません。けれども學校教育の短所は前已に述べましたから茲にはその長所を考へて見ませう。學校教育の長所は共同的であるといふことが其の第一であります。多人數を一時に一所に教育致しますから兒童を個人として取扱ふてなく共同的存在として取扱はねばなりません。茲を以て兒童は個性の偏向は取除かれて共同性のみが養成せられることになり私利私慾に走ることから遠ざかつて公共の利害及得失に着目するに至るものであります。次に規律的であることが第二であります。即ち學校は法律に依つて成り立つて居ますから其の組織が家庭の如く自然的ではなく全く規則的であります。又其目的も限定せられ其目的を達する方法も案出せられて其れ以外に出づることを許しません。之れ規律的であるといふ所以であります。従つて家庭の如く偶然的でなく諸事整然として相犯されぬ所に長所があります。次に第三に學校は努力的であることが其長所であります。即ち多人數が共同生活をなして居り

## 聯絡第一歩

## 聯絡第二歩

## 學校教育の長所

## (一) 共同的

## (二) 規則的

## (三) 努力的

しめることとあります。茲に於いて私は學校教育の長所短所は何かといふに論及しなればなりません。けれども學校教育の短所は前已に述べましたから茲にはその長所を考へて見ませう。學校教育の長所は共同的であるといふことが其の第一であります。多人數を一時に一所に教育致しますから兒童を個人として取扱ふてなく共同的存在として取扱はねばなりません。茲を以て兒童は個性の偏向は取除かれて共同性のみが養成せられることになり私利私慾に走ることから遠ざかつて公共の利害及得失に着目するに至るものであります。次に規律的であることが第二であります。即ち學校は法律に依つて成り立つて居ますから其の組織が家庭の如く自然的ではなく全く規則的であります。又其目的も限定せられ其目的を達する方法も案出せられて其れ以外に出づることを許しません。之れ規律的であるといふ所以であります。従つて家庭の如く偶然的でなく諸事整然として相犯されぬ所に長所があります。次に第三に學校は努力的であることが其長所であります。即ち多人數が共同生活をなして居り



ますから何事に依らず相競争し相比較し互に奮勵努力する様になります。家庭に於いては一人て單獨の生活を致しますから自然的な呑氣な所に長所がありますけれども互に切磋磨勵する機会を缺いてをります。即ち他と没交渉になつて己れ獨り善がる弊に陥るのであります。換言すれば我子見目美し我子獨り尊しの弊を免れません。尤も此情合がなければ子女は鞠養されませんから家庭の父母としては致し方もありませんが學校教育の廣き眼より見れば頗る偏した見解といはねばなりません。私は學校教育の長所を大凡右の三點に歸するのであります。同時に此長所は家庭の短所であります。最後に聯絡教育の第三步として考ふべきは家庭は學校の施設及教育方法に篤い好意を持するといふこととあります。何人も大切な子女を托する學校に對して惡感を有するもの無からうとは推測され得ることとあります。が政黨派の關係や習慣舊例の相違や其他種々の事情の爲に現今の學校は悉く理事者並に保護者の好意を受け居るといふに限ら

ぬのであります。之が爲に折角學校にて催ふす各種の教育的會合や其他の場合に保護者の出席すること少く甚しきはこの施設方法等につきて反對若くは批難の態度を取るなど随分世間に其の例少くないと思ひます。其の好意を有する保護者の學校の缺點短所については飽くまで之を辯護庇保して學校をして安んじて其行く所に行かしめるに比して其成績の差や蓋し幾許であらう。之は吳々も世の父兄保護者の注意を乞ひたいのであります。以上三種の點に於いて家庭がよく學校を理會すれば之に伴ふ聯絡の方法の如きは敢て叙述するを要せんのであります。即ち時々學校を參觀することや學藝會若くは懇話會に出席することや家庭の空氣を改めて其の一半は學校的に教養所とすることや一日一月或是一年の行事を教育的に定めることや下女下男等の選擇を慎しむことや皆是れ自然の結果として整理せられる事と思へるからであります。

## 第二章 社會教育との聯絡



家庭教育が學校教育に聯絡するには家庭が能く學校を理會せねばならぬと同じく家庭教育が社會教育と聯絡するには家庭はやはりよく社會を理會せなければならぬと信じます。然らば現今の社會はどんな有様になつてゐるかといふに之は思想上からと外形上からと二方面から觀察するが可いと思ふのであります。然るにこの二方面が何れも我國の現在ではあまりに教育的になつて居ないと私は考へるのであります。女子教育のこととありますから廣く全社會について通觀することをせず僅に一部の少女處女等について彼等の思想を探究しますと曾て私共が調査した結果によりますれば

- (一) 離婚を輕視し再婚を獎勵す。
- (二) 男子と同じく女子の不倫を認容す。
- (三) 獨身主義を主張す。
- (四) 虚榮に憧れ奢侈に流るゝ風多し。
- (五) 己れの趣味感想を最權威あるものとし道德習慣を無視す。

(六) 壞疑に走り獨斷に流れ羞耻の情甚しく減退す。

等のが著しく私共の目についたのであります。私は社會の上下を通じて然りといふのでありませんが若き女子の間には往々かゝる思想が現はれてゐるのであります。或は宗教家とか教育者とかいつて日常人間の精神を取扱ふ其人にさへも尙且つ此かる思想に捕へられてゐるものを見受けるのであります。眞に國家を憂へて根蒂から此の思想を拂拭する人は何時出ることとありませう。そして何時この墮落を救済することが出来るのでありませう。思へば實に情ないこととあります。併し私は尙甚しく悲觀致しません。何となれば社會の一部はかく墮落したとはいへどもまた、家庭は健全な分子が頗る多いと思ふからであります。世の中に何か眞實であるといつて親子の情に勝るものはあるまいと思ひます。眞實といふよりは寧ろ切實といふ方が一層恰當であります。世間皆偽るからうちに獨り儂らぬものは此の情であります。天下醜ならぬはなきがうちに甞り美なるものは此の情であります。盲目の愛もあらう。甚しき



は溺愛もあらう。然れども眞實にして偽らぬその愛は子女の短所に藹地に衝き入つて彼等を罪惡から救ひ得るのであります。現今世間に多く噂させられる不良少年少女の多くはかゝる家庭の愛を缺いたものであるといふを聞くに至つて能く這般の理を解し得ることと思ひます。此に於いてか社會を救ふの道は家庭教育に求めるより外に良法が無いといふことになるのであります。學校の教師が教育する所は稍もすれば迂遠に流れます。宗教家の喝破する説教は事によると多く形式になつて仕舞ひます。然れども家庭の父母が其子女に説述し教示する所は飾らざる偽らざる點に於いて否單刀直入的なるに於いて直に子女の肺肝を貫きます。假令過誤あり失錯あつても人に批難せられるでもなければ攻撃せられるでもないのであります。直に自分の精神を披瀝して子女の心底を抉ることが出來ます。假令批難あつても又攻撃あつても少も介意する必要がありません。此れ家庭は社會の缺陷を救済する唯一無二の所といはれる所以であります。家庭教育は即ち斯くの如き社會の缺陷に投入して之を矯正せん

としなければなりません。之れ家庭聯絡の第一歩であります。

次に現時の社會を外形から見れば著しく興奮的而も誇大的であると云ふことであります。世人殊に都會の人は一般に神經質になりました。其神經を興奮させる爲に特に誇大に刺戟するでなれば何の効もないのであります。其間に眞實を缺かうが虚偽に陥らうがそんな事に頓着してはゐられません。目を刺戟せんとすれば出來るだけ烈しい光線を用ゐるか強い色彩を使ひます。耳を刺戟するにも極めて強き高き調子を用ゐます。飲食物にも同様の刺戟性あるものを選びます。かうするでなければ人は一向に注意せぬのであります。それ故に總べて私共の耳目に觸れるものは皆眞實を缺いた虚偽のものになります。誇大にして一時的のものになります。人は如何にあらうと唯自分の利益になれば可いといふ風になります。之は都會の地ばかりでなく近來はどんな田舎にも此の風が遷つて行つた様であります。それで天事は兎も角も人事に至りては其醜目を蔽ふばかりといひたいのであります。詰り舉世滔々として皆然りといふ風



になつたのであります。近時公刊される新聞雑誌其他の物を能く精査すれば。直に這般の現象が譯ります。繪畫にせよ彫刻にせよ或は讀物にせよ皆此の傾向を帯びないものはありません。活動寫眞も同様であります。演劇見世物の類之れ亦其例に洩れませぬ。かゝる間に在つて子女を彼等が有する自然の偽らざる性質其の儘に養育しようとする家庭の苦心は實に察せられるのであります。それで私は家庭に勸めてかゝる人事の醜惡に其子女を接せしめるよりは寧ろ自然の風光に接觸せしむるの方法を取るが可いと申す次第であります。自然の風光に呼吸する地方の人士に不健全なる者極めて鮮いを見たら思半に過ぎることであらうと思ひます。都會の人の外形に奔り形式に囚へられる其の中に立つて地方人士が粗朴質直の儼然たる態度を持つるを見て私は誠に景仰欽慕の念に堪へないのてあります。地方學校出のものに不良の子女少きは其の環象之を然らしめるのであります。そこで家庭が社會外形の如何なるものかを理會し之を環象とする子女を適當に處理するは社會教育との聯絡の第二步であります。

ます。

以上社會の状態をば其内部より次に其外部より家庭が能く理會したとすれば其他の小なる聯絡方法は最早叙述するに及ばないのであります。従つて聯絡教育のことは此れて終りと致します。

近時學校及社會と聯絡するにつけ家庭は如何なる方法に出づべきかを懇示したる公刊書が中々多くあります。何れも參考にはなりません。聯絡の根本義に立ち入つて論じたものは少くあります。それで私は茲に根本義として學校及び社會の真相を記し以て家庭教育者の注意を牽きたいといふ點を論述した積りであります。而して前篇既に學校教育社會教育の缺點として論述せし所は聯絡教育上常に忘却してはならぬといふことを再び附言して置くのであります。

結論

## 少女の教育 (完)



大正三年十月十日印刷  
大正三年十月十五日發行

定價金壹圓八拾錢



少女の教育

著者	馬 上 孝 太 郎	東京市本郷區西片町十番地
發行者	目 黑 甚 七	東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地
印刷者	佐 久 間 衡 治	東京市京橋區西紺屋町二十七番地
印刷所	英 舍	東京市京橋區西紺屋町二十七番地

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目  
同南傳馬町一丁目(分店)  
新潟縣長岡市表四ノ町(本店)

目 黑 書 店

(東京) 電話京橋二一六三番(分店) 振替口座二八〇九番  
電話京橋二七四九番(長) 振替口座二三五七番(岡)  
電話長岡一八番 振替口座三六一九番



299

38

7.10.3



終

